

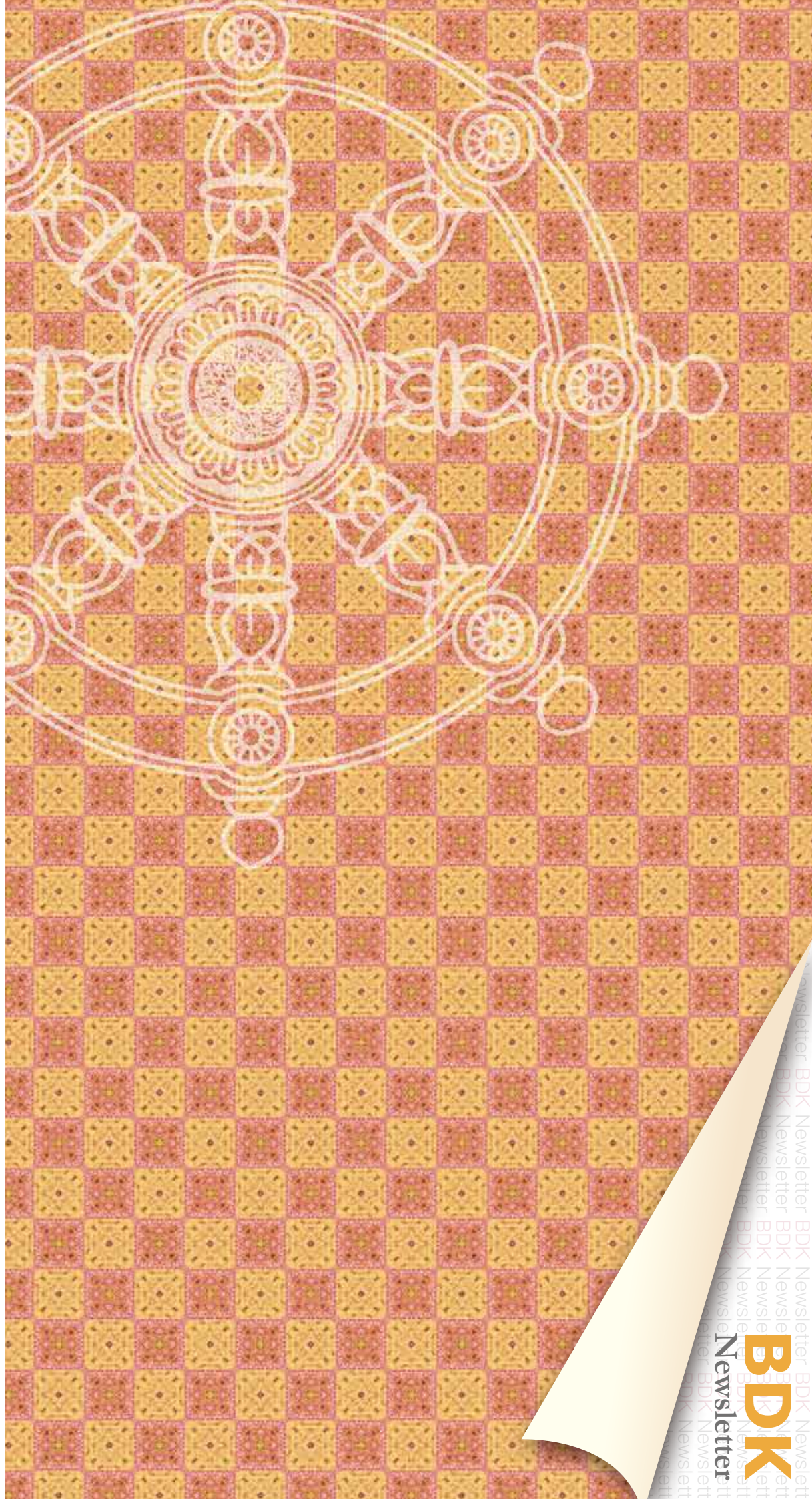


設立50周年
記念号

道 みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.04
2015



BDK
Newsletter



公益財団法人 仏教伝道協会
会長 沼田 智秀

道みち

04

CONTENTS

- 02 **設立50周年にあたり～当財団を支えてくださっている(株)ミットヨのご紹介**
『創業80周年記念ミットヨ展』(大田区産業プラザPio) に出展
(株)ミットヨにおいて続く“祖先祭”のご紹介
- 04 **公益財団法人 仏教伝道協会 2014年度の主な活動**
- 1. 出版事業**
設立50周年特集インタビュー BDK「英訳大蔵経」事業
●前田専学編集委員長に聞く
設立50周年記念 「一日一訓カレンダー」フォトコンテストを実施
シリーズインタビュー② 「仏教聖典」を訪ねて
●ホテルニューオータニ 副総支配人 鈴木浩氏に聞く
「仏教聖典」頒布の今 平成26(2014)年度の頒布状況等
- 2. 助成・表彰事業**
2014年度外国人留学生奨学金制度のご紹介
2014年度日本人留学生奨学金制度のご紹介
第48回仏教伝道文化賞
BDK東日本大震災復興支援事業
●各地での写真展開催報告他
平成26(2014)年度 その他助成事業報告 特別インタビュー
●公益財団法人 全国教誨師連盟 (近藤哲城理事長) の活動紹介
- 3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催**
第44回実践布教研究会 (於 臨済宗妙心寺派 大本山妙心寺)
三田落語会
「仏教聖典」を初歩英語で学ぶ会
「仏教聖典」を経営に活かす会 「仏教聖典」を生活に活かす会
●合同夏季研修会
働く人のための坐禅会
2014年度BDKシンポジウム
ちょっとひと休み「現代人のための仏教的食育のすすめ」
●飯沼康祐師(天台宗福昌寺副住職・料理僧)に教わる自宅で簡単おもてなし精進レシピ
- 33 **海外協力機関の活動紹介**
1) 北米圏 アメリカ/ハワイ/カナダ/メキシコ
2) 南米圏 ブラジル
3) アジア圏 台湾
4) 欧州圏 ドイツ/イギリス
- 44 **“ささえあって” 「いのち(生命)」**



公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.4 2015-5,000

平成27(2015)年6月1日発行(毎年1回発行)

発行 公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
電話: 03-3455-5851(代)
FAX: 03-3798-2758

編集・撮影 江口 郁 (公益財団法人 仏教伝道協会)
印刷 株式会社 アーク/デザイン 田所淳一
写真協力 島田典子

慈悲と共生の 仏教精神を世界に

仏教伝道協会は昭和40（1965）年12月に設立され、お蔭さまで本年設立50周年の記念の年を迎えることができました。

私の父、沼田恵範は仏教を広く世界に伝えたいと願い、その活動資金を得るため、株式会社ミットヨを起業し、現在の世界的精密測定機器メーカーに育てた後、初志である仏教伝道協会を興しました。お蔭さまでミットヨも昨年創業80周年を迎えております。

仏教伝道協会は設立以来、仏教聖典の翻訳刊行を行い、世界のホテルや病院等への寄贈を主に、大蔵経の英訳事業や海外主要大学の沼田仏教講座開設支援、留学生奨学金制度等、各種公益事業を展開して参りました。これらの活動は多くの有縁の方がたのご理解とご協力をいただき確実に実を結んでおります。

今、世界では宗教、人種、イデオロギーの違いなどを理由に残忍なテロや戦争が起き、多くの尊い命が失われており、人類の愚行は止まるところを知らません。

こういう時代にこそ仏教の説く智慧と慈悲、共生の精神を世界により強く発信し、平和なる世界の実現に貢献して行かなければならないと、この節目の時に気持ちを新たにしている次第です。

これまで当協会の活動を支えてくださっている皆さまに深く感謝申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

合 掌



■設立50周年にあたり

「当財団を支えてくださっている

株式会社ミットヨ」のご紹介

公益財団法人仏教伝道協会がこれまで順調に活動を進めることが出来てきたのも、財団を縁の下から支え続けていただいている株式会社ミットヨの存在が欠かせません。今回は財団設立50周年の節目に今一度原点に立ち戻り、活動を見つめ直すべくミットヨの創業の精神と現在の仏教伝道協会との関わりなどをご紹介します。

ミットヨでは創業者が会社設立に託した思いを「創業の精神」として今も大切にしています。これらは「不変のものであり、ミットヨの経営の原点であり、全社員の心の拠り所となるもの」で「ミットヨグループ理念体系」として公式ウェブサイトででも掲載されていますのでご紹介します。

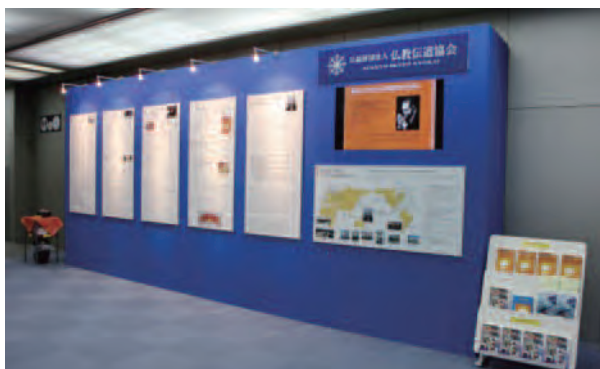
そしてこれらを基にして「精密測定で社会に貢献する」ことを会社経営の基本目標として会社運営がされています。

1 仏教伝道の支援を通じて人々の幸福に寄与する

- 共存共生の心である仏教伝道の支援を通じて人類の平和と幸福に貢献するという願いが最初であり、この願いを成就するために会社を興しました
- また、会社は縁あって集まった社員が共に成長し共に幸せを追求する「共生の場」であり、人格を磨く「人生の道場」でなくてはならないと考えました

2 活動する領域において世界のトップレベルを目指す

- 創業者がマイクロメータの国産化に着目したのは、「人に迷惑をかけない」「世のため人のためになる」という共生の心に基づいています
- まだ技術も確立されていない時代に、「やる限りは世界でも一流と評価され、信頼される存在になる」という高い志をもって事業を開始しました



ミットヨ80周年記念展：
仏教伝道協会出展ブース

「創業80周年記念ミットヨ展」に出展 —— ビジネスの原点は仏教にあり

平成26(2014)年を以て株式会社ミットヨは、創業80周年の記念の年を迎えました。ノギス・マイクロメータでは国内シェア約90%、精密測定機器業界全体でも国内約50%、そして世界約30%の圧倒的なシェアを誇る精密測定機器の世界的トップメ

ーカーに成長したミットヨですが、80周年の記念行事として、平成26(2014)年4月10日(木)～12日(土)の3日間、にわたり大田区産業プラザにて「創業80周年記念ミットヨ展」を盛大に開催しました。

仏教伝道協会も特別展示ブースを出展し、日頃の活動を紹介しました。ミットヨ創業の背景や仏教伝道協会とミットヨの関係など、発願者である沼田恵範の仏教によせる熱い思いをミットヨの顧客の皆さまにもご理解いただく良い機会になりました。

また「経営と仏教」と題し、発願者のように仏教を経営に活かした実業家や著名人を紹介、また意外と知られていない「経営」や「営業」などのビジネス用語の原点が仏教にあるこ



ミットヨ祖先祭：社員に向け年頭の挨拶をする沼田相談役

などを紹介しました。
その後、10月には広島でも同様のミットヨ展が開催され、多くの方がたに会場いただき、仏教伝道協会の活動を広く紹介することができました。

◎頒布総数

「東洋経済抜刷冊子」
「あゆみ」
：各53000部
「仏教聖典」：200冊
「まんが仏教のひみつ」
：300冊

株式会社 ミットヨにおいて続く 「祖先祭」のご紹介

ミットヨでは、創業者であり仏教伝道協会の発願者でもある沼田恵範の呼びかけにより創業以来毎月1回「祖先祭」という行事を行っています。全国各

事業所において毎月1回従業員の方がたが仏壇の前に集まり、めいめいの祖先に感謝する儀式で、創業当時から欠かさず開催されています。

沼田恵範の講演録「一筋の道」（昭和50年10月浅草寺仏教文化講座講演録）の中でも発願者はミットヨで行われている祖先祭について「事業経営のなかに仏教を生かすための工夫」として以下のように語っています。

「この行事を始めたのは、それなりのわけがあります。創業当時の日本は不景気風が吹きまくって世相が悪く、エロ、グロ、ナセンセンス時代でした。私の



祖先祭しおり



その月に誕生日の社員にはゆばのプレゼントもある

工場で働いてくれる若い人たちも、いくら真面目な者でも、この荒んだ都会の空気にふれると、安易でうすつぺらな生活に走りがちです。しかし、特に地方から出てきた人たちで、出郷時の初心を忘れて享楽の世界に走る人も、田舎にいたならば、おそらくそうならなかったでしょう。祖先を忘れ、父母兄弟を忘れて、ひとりぼっちの孤独な生活を強いられるために、そうなるってしまうのではないか。私は、アメリカにいた時の、あの地下室で、父が書いてくれた壁の名号とむかいあった時の安らかな心を思い浮べずにはおれません。そこ

で私は、勤務しながら、不幸にも父、母を亡くした人が、亡き人と対話できる場を社内につくろうと思つたのです。その月内に両親、家族の命日をもつ従業員は、全員、仏前でご焼香する。遠く離れていても、その瞬間は、どんな人間でも、真面目に「元気でやっています。ご安心下さい」と心のなかで話しかけるにきまつている。そういう人柄になつてほしいと私は考えたのです。幸い、この行事の効果は次第に現われ、地方出身者たちに安らぎの表情が浮かび、工場をやめていく人も目にみえて減りました。それに、なにしろマイクローメータづくりは、目にみえない精密きまる仕事だけに、手をぬこうとすればいくらでもぬける。いいかげんな仕事をして、すぐにわかるものではありません。そんな従業員がひとりでもいたら、製品の信用はガタガタになつてしまつたでしょう。祖先祭を通じて、仏の教えに少しでも近づいてほしいと思つたこと

が、人間形成に役立つのみか、そのまま、会社の信用や業績にも結びついていくわけです。モノを作ることに、人を作ることは、別ではないと、強く感じたことです。」

現在は、沼田智秀相談役（兼仏教伝道協会会長）が各事業所を周り祖先祭に参加しています。創業当時とは、取り巻く環境は変化していますが、殺伐とした現代社会だからこそ従業員の皆さまの心の安らぎと豊かさを願って現在も祖先祭の伝統は各事業所にて受け継がれています。

◆株式会社ミットヨへのお問い合わせは直接下記までお願い致します。
〈住所〉〒213-8533 神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1
〈電話〉044-813-8201
〈FAX〉044-813-8210
〈公式ウェブサイト〉
<http://www.mitutoyo.co.jp/>



左からケネス田中氏、前田専學氏、米澤嘉康氏、渡辺章悟氏

設立50周年

特集
インタビュー

1 出版事業

Publication

B D K 「英訳大蔵経」 事業

前田専學編集委員長に聞く

平成27(2015)年に設立50周年という節目の年を迎える仏教伝道協会の主軸事業の一つに「BDK「英訳大蔵経」事業」がありますが、難しそうな響きに「一体どのような内容なのか?」「英訳大蔵経」って何?」そんな疑問を持たれている方も多くいらっしゃるかと思います。今回はそのような今更聞けない疑問にお答えいただくべく長年、編集委員長として「英訳大蔵経」の編集に携わっていただいている前田専學先生にお話を伺いました。

◎取材協力「英訳大蔵経編集委員」ケネス田中氏、渡辺章悟氏、米澤嘉康氏
◎聞き手・撮影「公益財団法人 仏教伝道協会 江口郁
◎場所「仏教伝道センタービル(公財) 仏教伝道協会内 英訳大蔵経編集室

「ずばり『英訳大蔵経』とは何でしょうか?」

まずは「英訳」という以上は、何語からの英訳か、そして「大蔵経」とは何か、少なくともその二つの問題に答える必要があるかと思えます。

何語からの英訳だったか

というと「古典中国語」すなわち「漢文」からの英訳です。では、その古典中国語で書かれている原本は何かと申しますと、一般的に「漢訳大蔵経」といわれている膨大な仏教聖典の叢書です。そして更に「漢訳」と言われると、では何語からの翻訳なのか、ということになり

ますが、それはごく一部の例外を除いて全てインドの古典語である「サンスクリット語(梵語)」またはそれのややくずれた仏教梵語です。この言葉は、英語やドイツ語などと同じ印欧語族という言葉のグループに属する言葉です。

それだけ聞いてもピンと

こない方も多くいらつしや
ると思いますが、日本人と
サンスクリット語(梵語)は
日常的につながりがあるの
です。例えば、「テレビ塔」と
いう言葉の中の「塔(とう)」
という言葉の素性を尋ねれ
ば、stupa(ストウパー)卒
塔婆(そとうば)というサ
ンスクリット語なのです。

このように何気なく使つて
いる日常語の中にも沢山サ
ンスクリット起源の言葉が
入っています。

そしてこのサンスクリッ
ト語で書かれた仏教聖典を
一体誰が漢文に訳したのか
と申しますと、皆さんよく
ご存じの『西遊記』の主人公
三蔵法師のモデルとなつて
いる玄奘(602—664)
などのような熱心な中国仏
教のお坊さんたちでした。

玄奘の場合は、原典に基
づいて仏教を研究しようと
志し、独力で629年に長
安、今の西安を出発、シルク
ロードを越え、インドに入
り、仏像や仏舎利の他、仏典
のサンスクリット語写本6
57部を持って645年に
長安に帰りました。玄奘が
帰国したその年に国立の翻

訳院が建てられ、弟子たち
とともに仏典の翻訳を開始
しました。この玄奘は翻訳
家として特に有名ですが、
実はそれ以前の2世紀に中
国の洛陽にやつて来た安世
高が、初めて仏典の漢訳を
おこなつて以来中国では、
膨大な数と量の仏典が漢訳
されました。

そして「大蔵經(だいぞう
きょう)」とは、そういった
もの全てを集めたものを総
称したもので、「蔵經」ある
いは「一切經」とも言われて
います。大分昔の話ですが、
国のある機関において科学
研究費の審査が行われ、私
は当時審査委員としてその
審査に携わつていたことが
ありました。その時のお役
人がしきりに「おおくらき
よう、おおくらきよう」と何
回も申すのですが、はじめ
は何のことか分かりません
でした。(微笑みながら)で
すがやがて、それが我が「大
蔵經」のことであることが
分かり苦笑したこともあり
ました。国のお役人ですら
「大蔵經」の正しい読み方
を知らなかったのです。重
要な存在でありながら、今

日では知っている方が少な
いのが現状です。

もとは中国で膨大な仏教
聖典を内容によつて分類
し、ブツダの説かれた仏典
群を「經藏」、個人の守るべ
き戒と教団の規則群を「律
藏」、經典の解説書や教義書
群を「論藏」、それら三つを
略称して「三藏」と呼び、そ
の三藏を中心に若干の中国
で作られた文献を加えて
「大蔵經」とか「一切經」と呼
ぶようになりました。しか
し近世以来、ひろく漢訳以
外の三藏をも含めて「大蔵
經」と呼ぶようになりまし
た。このようなわけで、皆さ
んもなぜ玄奘が「三蔵法師」
と言われるのか、お気づき
かと思ひます。三藏といえ
ば經・律・論を併せた仏典
の総体を意味し、三蔵法師
という称号は、この三藏、す
なわち仏教聖典全てに精通
している僧という大変に名
誉な称号なのです。

そして我々の英訳大蔵經
の底本としている漢訳大蔵
經、それは「大正新脩大蔵
經」です。では大正新脩大蔵
經とはどんな大蔵經なのか
をお話ししましょう。

これは日本における近代
的インド学・仏教学の父と
して知られる高楠順次郎先
生(1866—1945)が
渡辺海旭先生(1872—
1933)らとともに大正
13(1924)年から10
年の歳月を費やして完成さ
れた漢訳仏典の一大集成で
す。この出版は、韓国で開版
された高麗版大蔵經(現在
世界遺産に指定されてい
る)を底本としながら、種々
の「大蔵經」と対校してあ
り、この出版の学術的価値
は国際的に高く評価されて
おります。単にインド・中
国で作られた仏教聖典の集
成であるばかりではなく、
聖徳太子の「三經義疏」をは
じめ、江戸時代の学僧の著
書にいたる日本仏教の重要
な文献が収録されており、
世界に誇るべき東洋の一大
文化遺産です。それを我々
は、現在の世界各国で使わ
れている英語に訳し、更に
デジタル化を目指している
のです。我々の事業が如何
に重要で、有意義なもので
あるか、お分かりいただけ
るかと思ひます。

日本経済新聞の記事(1

985年7月6日)では、故
中村元氏(仏教学者・19
12—1999)も「東洋人
のものの考え方の根本には
仏教的な精神が潜んでいる
が、大蔵經英訳事業は、この
東洋思想を欧米などに理解
してもらうのにはかりしれ
ない効果がある。仏教の観
念は非常に英訳しにくい
が、成功すれば日本に対す
る誤解を解くことにもつな
がる」と評価されたそうで
す。

なるほど、このことから
いかにこの事業が壮大かつ
世界中の学者の仏教研究や
歴史研究などに影響を与え
る重要性の高い事業だと言
えるわけですね。それでは
本事業、編集委員会の成り
立ちとこれまでの経緯を教
えていただけますか。そし
てなぜ今、英訳「大蔵經」
の編集が必要なのでしょう
か？

この壮大な事業を発願さ
れたのは、当時の仏教伝道
協会会長であつた故沼田恵
範師でした。初代の編集委
員会委員長は、私の東京大

公益財団法人 仏教伝道協会

まず沼田恵範師がかつて

「仏教聖典」を世界各国の言葉に翻訳して（平成27年3月現在64カ国語）全世界の主要なホテルに寄贈されていたことは周知のことと思います。しかし氏は、それに満足することなく、その「仏教聖典」の典拠となっている全ての仏教経典を英訳しようと思ひ立たれたことに始まると言われています。まことに気宇壮大な大事業であります。

中国の仏教徒はインドのサンスクリット語等から仏教聖典を漢訳し、チベット人は、文字まで作つて「チベット大蔵經」を作りましたが、わが国の仏教徒は中国人の作つた「漢訳大蔵經」を日本語に訳すことをしませんでした。「国訳一切經」はあるものの、これは漢文を訓読したものにはすぎないの

花山初代編集委員長は、

「沼田さんから最初にこの構想を打ち明けられた時はとても本気にしなかった。

何しろ日本語訳さえない大蔵経です。しばらく何から手をつけていいのか全く分からなかった」と日本経済新聞（1985年7月6日）に語ったそうです。

ですが、沼田初代会長は昭和57（1982）年正月に、この大事業を決意されるや、その年の4月には早くも「準備委員会」が設けられ、同年7月には「英訳大蔵経編集委員会（Translation Committee of the English Tripitaka）」が発足いたしました。編集委員会では第一期計画として、仏教の各組織・各宗派で重視されている139点の經典と論典を並び、これを100巻にまとめて公刊することになりました。この第一期計画は

20世紀中に完了する計画でした。当時は週二回、委員によつては週三回も出勤して

いたのですが、様々な事情で現在は月二回の出勤となつています。それぞれの宗派から満遍なく若手の委員を選出し、偏りがないように配慮されて事業は進められました。ですが、わざわざ若手を選出したにも関わらず直ぐに亡くなってしまう方もいて、到底当初の計画通りには事業は進みませんでした。折角花山君から誘いがきたのだからやつてみよう”と思い、編集委員となつて、それからあつと言う間に30年が過ぎてしまったわけです。

この大事業は、学術的成果をあげるのではなくて、人類の平和を願つての事業です。世界の人々に広く經典が読まれることを望んでいたわけですから、それは英語のような多くの人に通じる言語でなくてはならない。そして学者ではなく一般の方々にこそ読んでいただきたい、そういう願いの下この30年歩んできました。沼田惠範師と花山君

は常に意志疎通を図り、お互いにこの壮大な夢を語り合っていたようです。

1991年、アメリカ・カリフォルニア州の沼田翻訳センターに出版委員会が設置されました。出版販売を担当する出版委員会は、東京の編集委員会とは運命共同体のような関係にあります。そのアメリカ側からある日本人の英訳が出版できないなどと言われ問題が起きたこともありました。しかしお互いの立場や考え方を理解しつつ、話し合い、今日の編集委員会が存在しているのです。そして有能な3名の編集委員の先生方、すなわちケネス田中、渡辺章悟、米澤嘉康の三委員のご協力を得て、安心して、曲がりなりにも委員長を続けていられて、本当にありがたいことです。

「翻訳」という作業は学術成果として認められない場合が多いですし、骨の折れる作業の割には報酬が見合っていないと言えません。ですから、優秀な翻訳者を確保することも編集委員会を運営していく上で非常に

大変なことです。ですが、やはり多くの方が読み、理解することの出来る言語で伝

えることこそ、世界中に仏教の思想を弘める有効な手段だと思うのです。そして仏教と言っても沢山の宗派がありますので、一宗派だけでは難しいことも超宗派の「公益財団法人仏教伝道の協会」だからこそ出来る事業でもあるのです。現在、先にも申し上げましたが、英訳作業に加えそれらをデジタル・データベース化したPDFを仏教伝道協会のウェブサイトにダウンロードできるようにしたり、また日本印度学仏教会の『S A T（大藏經テキストデータベース研究会）』事業にも協力したりして、英訳大藏經の普及事業を進めています。今日ではまだ限られています。今日ではまだ限られています。

英訳とをオンラインで見ることができるようになっています。漢文は多くの日本人にとっては多少とも親しみがあるものですが、世界の大半の人々にとつては全くなじみがないものです。ですから「英語で」という意



前田専學 まえだ・せんがく

(公財) 中村元東方研究所理事長・東方学院長

●昭和6（1931）年名古屋生まれ。東京大学文学部印度哲学梵文学科卒、ペンシルヴァニア大学大学院東洋学科修了。Ph.D.、文学博士。日本学士院賞・勲三等旭日中綬章・名誉研究員（中国）・名誉博士（スリランカ）・賞牌（韓国）・功労賞（タイ）・パドマシュリー勲章（インド）受賞。現在、東京大学名誉教授・武蔵野大学名誉教授・日本遺産足利学校席主・中村元記念館館長。主な著書に、『ヴェーダーンタの哲学』『ウパデシヤ・サーハスリー』『インド的思考』『ジャータカ全集3』『インド哲学へのいざない』『ブッダーその生涯と思想』など。

「英訳大蔵経」

平成26（2014）年の刊行状況

平成26（2014）年は、1月に第46巻目となる『大般涅槃経（1）』を刊行いたしました。

また2月より仏教伝道協会のホームページでの英訳大蔵経PDFデータの公開を開始し、現在20冊（40典籍）のデータをご覧いただけます。このデータ公開により、英語圏の読者が仏教の經典に直接触れていただく機縁となることを願っております。

※「英訳大蔵経」事業の詳細や刊行状況については当財団公式ウェブサイトをご覧ください。

味は大きいと思います。

ありがとうございます。では最後に前田先生にとって「英訳大蔵経」とはどのような存在でしょうか。また今後の展望をお聞かせ下さい。

前に述べましたように、英訳大蔵経は世界の一大文化遺産の英訳であり、そこに盛られている仏教思想は普遍的意義を有すると思っていますので、更なる普及を願っています。昨今、世界では「目には目を、歯には歯を」のような怨みに報いる

に怨みを以てする悪の連鎖に陥っていますが、私は「怨みを捨ててこそ止む」という真理と、「仏教の慈悲の精神」を、世界中の一人でも多くの人々に今こそ伝えたい、と言う思いで、この事業を進めています。大変に困難なことです。誰かがしなければ今後の展望は開かれませんが、この仏教伝道協会設立50周年の記念の年に、再度決意を新たにしたいと思っています。未だ第一期計画の達成までの道程は遠いですが、私が元氣な内に少しでも早く前に進めたいと願っ

ていますし、更なる仏教思想の普及につながっていくべきと思っています。

ケネス委員からのご指摘がありました。近年アメリカでは宗教学の授業が多い環境の中で仏教のテキストが必要な場合、アメリカで出版したものが採用されるケースが多いそうです。アメリカの宗教学会では毎年出版委員会がその年に出版した書籍を販売したりしていますし、大学などでは「英訳大蔵経」が教科書として採用されていたり、そのPDF版を無料で提供しているから、タブレットなどの

携帯端末からも見ることが出来るようになっていきます。

「英訳大蔵経」によってより多くの方々に仏教に触れるチャンスをお与えることが出来ます。非常に大きな可能性を持った事業だと確信しております。仏教伝道協会による「英訳大蔵経」が、仏教を世界に向かって広めるため、これからの世界のスタンダードになっていく可能性が益々高まるのではないかと考えています。

* * *

終始優しい眼差しでお話しくださった前田先生の温かな人柄からも伺うことが出来る親しみやすい雰囲気の方々に聞き手もほっとする瞬間が数多くありました。非常に壮大且つ困難な内容ではあるものの常に誠実に翻訳作業に向き合う皆さまの姿勢に大変感銘を受けました。今後も精力的に刊行を進めていくとの力強いお言葉もいただき、「英訳大蔵経」の刊行によって今後益々仏教精神が世界へひろく伝わっていく事を願っています。



1日



2日



3日

設立50周年記念

「一日一訓カレンダー」

フォトコンテストを実施

—— 仏教に自然に親しんでいただくために

仏教伝道協会設立50周年を記念して、毎年好評をいただいている「一日一訓カレンダー」に掲載する写真31枚を一般公募する「フォトコンテスト—ほとけの心」を開催しました。

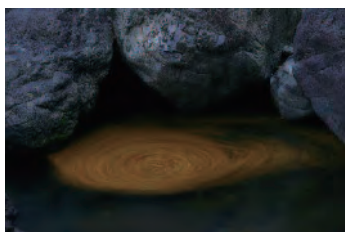


平成26(2014)年1月から8月の応募期間中に500件、1409枚の写真をご応募いただきました。9月2日の第一次選考ののち、9月8日に「審査会」を開催しました。審査員は石黒健治氏(写真家)、大橋紀雄氏(僧侶・写真家)、丸林正則氏(写真家)、杉全泰氏(写真家)の4名で、審査員長は石黒氏にお願いし、第一次選考を通過した優秀な作品の中から選りすぐりの31点を選定しました。

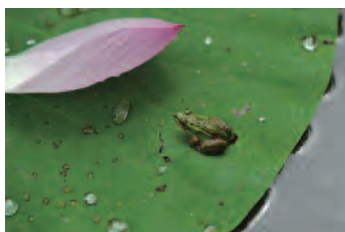
また、入選作品全31点をカメラ雑誌『日本カメラ』にカラーで掲載し、普段、仏教に触れる機会の少ない方がたにも写真を通じて、仏教精神に自然に親し



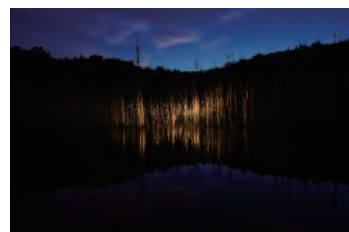
4日



5日



6日



7日



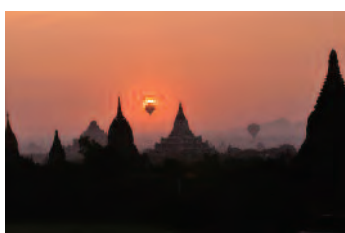
8日



9日



10日



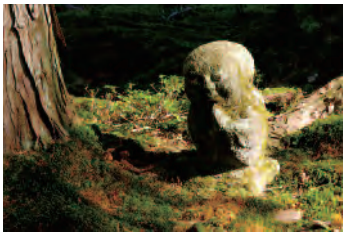
11日



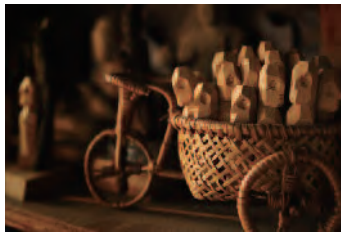
12日



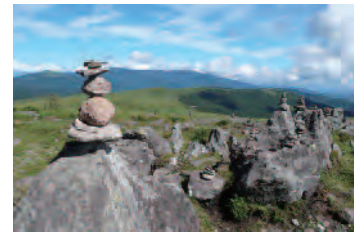
13日



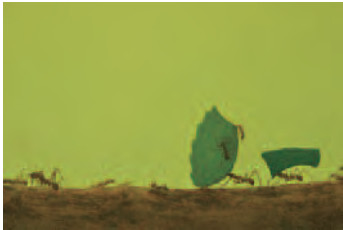
14日



15日



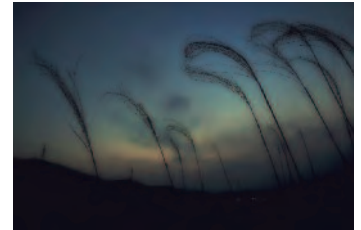
16日



17日



18日



19日



20日



21日



22日

解説書『みちしるべ正
しいことば—正語—』に
は、花園大学名誉教授西
村恵信師に、カレンダーの
31の文言にやさしく心に
響くお話をつけていただ
きました。
※フォトコンテスト入選
作品は、当財団公式ウェブ
サイトに審査員の講評と
ともに掲載中です

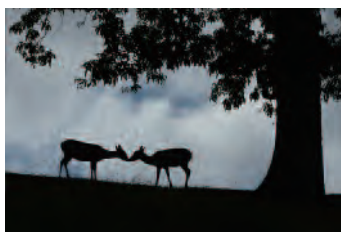
「一日一訓カレンダー—
正語—」は、色覚の個人
差を問わず多くの方に見
やすいよう、特に休日の表
示色に配慮したデザイン
に変更しました。デザイン
は特定非営利活動法人カ
ラーユニバーサルデザイ
ン機構の認定を受けてお
ります。

「一日一訓カレンダー・み
ちしるべ『正しいことば—
正語—』発刊

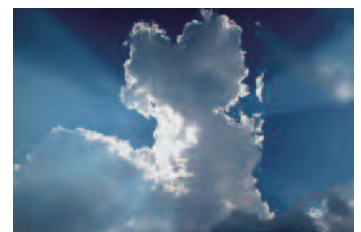
んでいただく機会を提供
することができました。
尚、設立50周年記念カレ
ンダーは、平成28（201
6）年版として平成27（2
015）年6月頃の刊行を
予定しています。



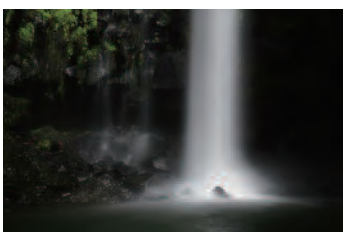
23日



24日



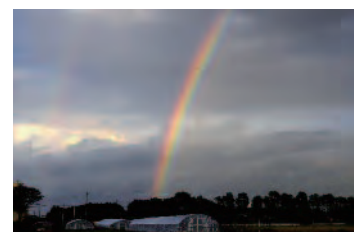
25日



26日



27日



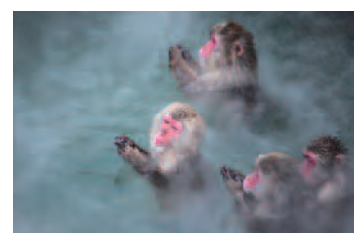
28日



29日



30日



31日

「仏教聖典」を訪ねて

ホテルニューオータニ 副総支配人

鈴木 浩氏に聞く

仏教伝道協会では長年「仏教聖典」の頒布を主軸の活動と位置づけて参りました。近年多様化する社会のニーズの中で、さまざまな場面で活用されています。本日は、この「仏教聖典」をホテルにてご活用いただいているホテルニューオータニ副総支配人(兼宿泊料飲本部長)の鈴木浩氏にお話を伺いました。

◎聞き手・撮影＝(公財) 仏教伝道協会 江口 郁

◎場所＝ホテルニューオータニ

Q まずはホテルニューオータニの歴史やコンセプトなどをお聞かせいただけますか。

お蔭さまで今年(2014年・平成26年)当ホテルは創業50周年を迎えたところです。2020年の東京オリンピックの開催が決まり、にわかに脚光を浴びていますが、今から50年前の東京オリンピック(1964年・昭和39年)の開催に向け、当時は日本中が建設ラッシュでしたが、まずは海外からのお客さまを受け入れるホテルの絶対数が足りないという事で、政府からの要請で日本初の*「インターナショナルホテル」として開業したのが当ホテルの原点です。
*インターナショナルホテル／最低平米数や必要設備面等の国際基準とされる厳しい条件をクリアしたホテルを指す

創業者の「全てのお客さまに富士山を見てもらいたい」という思いで最上階に特別に作った回転ラウンジ(戦艦やマトの砲台技術を応用)など、さまざまな国からいらつしやる全ての皆さまに快適な宿を提供出来るように、今では流行語のように使われていますが、ホテルニューオータニでは創業当時のホテル

ルニューオータニ流の「おもてなし」を提供し続けています。まるでひとつの街のように、「国賓から家族の団らんまで」幅広いニーズに応えられるよう、進化し続けている当ホテルですが、この50年の間にさまざまな変化を遂げてまいりました。開業当時は、「東洋一の超高層ホテル」と言われ、浴室全体を工場で生産して現場に運び込むという業界初のユニットバスを採用をはじめ、当時としては数々の画期的な工法が生まれました。そして「常に美味しい物を提供する」、これは国籍や宗教を問わず皆さまに喜んでいただけることで、ずっと追求し続けています。

その後2000年代になると築40年余となった本館(現・ザ・メイン)を建て替える話が持ち上がったのですが、結局は全てを取り壊すことなく完全にリニューアルという選択をしました。本館は全て取り壊して更地にした上で建て直す方がコストを抑えることができるのですが、そこから出た廃材は焼くことも埋めることも出来ずに廃棄されるわけです。私たちは廃棄を抑えて「環境にやさしいリニューアル」という道を選択しました。リニューアルに伴い、更な

る耐震性能の強化、熱や紫外線を50%カットする、床から天上まで全面ペアガラス張りの「フルハイトウインドウ」、エネルギー消費や二酸化炭素の排出量を削減するため空調を部屋毎の個別空調(新空調システム「AEMS」の採用)にすることなどにより「環境にやさしいおもてなし」を実現しています。ホテルは最も快適に過ごしていただきたい場所ですので、一見「エコ」とは相反しているように思えるのですが、リニューアルによって快



適性が増し眺望も良くなり、そして地球に優しいという、ハイブリッド（融合）ホテルを実現したというわけです。

最初は美味しいものをたくさん用意したり、水やガス、電気もふんだんに利用して少しでもお客さまのお役に立ちたい、幸せになつていただきたいという思いで徹底的に快適性を追求してきましたが、やはりお客さまを取り巻く環境を大切にすることを考えれば、その負荷は必ず私たちに返ってきます。そこであくまで「循環型」にこだわり、ホテル内から出る生ゴミを1週間で堆肥にし、それらの土を農家へ持ち込み作物を作っていた。そこで作られた新鮮な野菜をまたホテルで提供する（現在は社員食堂のみ）、100%リサイクルする「コンポストプラント」をいち早く採用した「循環型リサイクルシステム」を構築してきました。

Q なるほど。では、このような日本を代表する格式高いホテルで「仏教聖典」を常備いただいている理由は何でしょうか。また宿泊客の皆さまの反応はいかがですか。

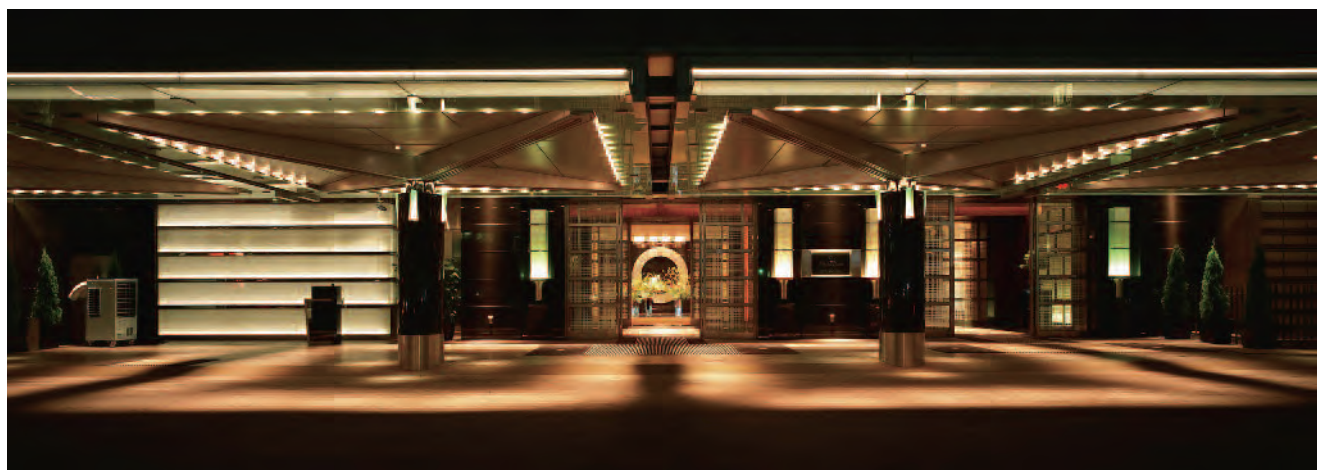
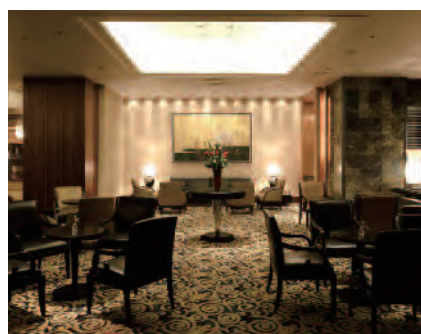
一言で申しますと（微笑みな

がら）外す理由がないからです。多くの方が必要としているのでしうね。外すと必ずクレームが来ます。実際お使いになつて

いる方は多く見受けられます。近年は海外からのお客さまも増えておりますし（現在全体の約35%程度が日本人以外の宿泊客）、皆さま日本に来る目的はさまざまですが、殆どの方が日本では神社仏閣を訪れていらつしやいますよね。ですから滞在の中で自然と興味を持たれますし、やはり「仏教」は日本を代表する宗教の一つですから、「仏教聖典」は当ホテルの「おもてなし」の一環として常備させていただいているのです。

誰しもホテルでの滞在を焦つて過ごしたいと思つている方はいないと思いますが、忙しい中でもふと立ち止まれる瞬間を提供してくれるのが良いですね。

必ず枕元に置いてありますから、何気なくでも手に取つただけでしよう。創業当時から置かせていただいていることもあり、ごく自然にそこにあるので特に外す理由もなく、長年当然のように置かせていただいております。創業当時に「仏教聖典」を常備することを決めた選択は間違つていなかったと思つ





客室内に設置されている「仏教聖典」

ています。『今も尚それしかない』それがこの50年の答えを出しているのだと思います。

Q ありがとうございます。では今後の貴ホテルにおける「仏教聖典」の活用についてはいかがでしょうか。

やはり日本では信教の自由ということがありますので、こちらからお客さまに働きかけてということはありませんが、お客さま自身が求めているものをご提供するということだと思えます。今後も現在と変わらず「仏教聖典」を常備させていただきたいと考えております。さまざまな言語で刊行されていると聞いていますので、世界各国での活用も考えられますね。

そして何より客室内ではお客さまに「寛ぎ」を提供する役割を担ってくれています。宗教というのは人の悩みや苦しみを和らげてくれるものだと思うのです。私たちはあくまで客室を売っているのではなく、幸せを売っているのだと思い日々仕事をしていますので、そういった意味でも日本国中はもとより世界各国からいらしていただいているお客さまに日本を代表する宗教をもっと知っていただきたいという思いがあります。

Q 最後に、海外からのお客さまも益々増える近年、ついに東京が2020年のオリンピックの開催地に選ばれましたが、ホテルとしての新たな取り組み等は

ありますか。

これはオリンピック開催に限ったことではありませんが、今後更に多くの国々からのお客さまが予想されるため、全てのお客さまに寛いでいただけるよう、やはりさまざまな言語で対応が出来るように日常会話レベルの向上に努めています。もちろん高度な語学力も大切ですが、ちよつとしたお客さまとのコミュニケーションを図ることが出来る挨拶などの簡単な言葉を話せる母数を圧倒的に増やす取り組みをしています。新たに能力開発課という部署を改定し、そちらを中心に主要言語をはじめとした各国語の研修を行っています。特殊な言語に関しては外部の語学スクールなど

で学べるように会社が補助をする制度などもあります。

そして、些細なことでこそ気付かされる日本ならではの『おもてなし』をより多くのお客さまに身近なものに感じていただけるよう心がけています。その他敢えて接客マニュアルをごく基本的なものだけにし、昔ながらの温かみをそのままに、お客さまへのサービスが画一的なものにならないようにも努めています。ホテルニューオータニ流の『おもてなし』を進化させ、お客さまに満足していただくだけでなく感動にまで高めていくことができたかと考えています。全社員共通のキーワードとして「お役に立つ」、「楽しんでいただく」、「喜んでいただく」、「寛いでいただく」、この4つを念頭に常に仕事をしているわけですが、先にも申し上げましたが、私たちは客室を売っているのではなく、食事を売っているわけでもなく、宴会場を売っているわけでもなく、お客さまには『幸せを売っている』のだと、このトッパマネージメントの言葉をみんなに言い続けています。ケーキひとつをとってもケーキを売るのが目的ではなくケーキを食べたお客さまが美味しいと言って

『幸せになつてくださる』ことが本当の目的なのです。

* * *

現在「仏教聖典」を客室の備品として活用して下さっているホテルは、今回ご紹介させていただいたホテルニューオータニをはじめとして世界64の国と地域の約13,600軒(平成27年3月末現在)にのびります。今後日本ならではの、ホテルニューオータニならではの『おもてなし』を提供するために「仏教聖典」を引き続きご活用いただけるとの御言葉をいただきました。仏教伝道協会では日本全国そして世界各国のホテル・旅館などへの無償頒布活動が続けてまいります。宿泊施設内備品としての寄贈のご希望は仏教伝道協会(出版事業部)までお気軽にご連絡下さい。

◆その他ホテルニューオータニに関するお問い合わせは下記まで直接お願い致します。

〒102-8578
東京都千代田区紀尾井町4-1
TEL: 03-3265-1111
FAX: 03-3221-2619
<http://www.newotani.co.jp/tokyo/>

〈平成26(2014)年の「仏教聖典」頒布状況〉1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数
国内	ホテル(新規)	40	3,964
	ホテル(補充)	114	10,050
	病院(新規)	1	2
	病院(補充)	6	132
	学校(販売)	7	8,860
	学校(寄贈)	478	89,584
	寺院(販売)		3,099
	寺院(寄贈)		2,182
	一般他販売		505
	書店		1,732
海外	寄贈	4,561	
	国内頒布数計	110,475	14,196
	海外協力機関	65,670	
	ホテル	12	1,311
	その他	45	938
	海外頒布数計	67,919	0
		178,394	14,196
総計			192,590

「仏教聖典」頒布の今

平成26(2014)年度の頒布状況等

仏教聖典の翻訳頒布状況は現在、翻訳言語数46言語、累計発行部数860万冊以上に及びます。より活動内容の公益性を高めるために開始した仏教系学校、保育施設等への頒布活動は、順調に推移し、本年は新たに東北福祉大学(曹洞宗)、駒澤大学(曹洞宗)、大正大学(浄土宗)、立正大学(日蓮宗)等を加え、全456校に約90,000冊を寄贈しました。その結果全国の仏教系学校への寄贈実績率は、大学では約6割、短大・高校では5割に達しました。

「仏教聖典」の活用方法について、未来の看護師を養成する淑徳大学看護学科では「仏教看護論」のテキストとして、科学だけでは対応しきれないテーマである「癒やし」や「救い」へのアプローチの書として用いられています。また大正大学では公開講座「仏教寺子屋」にて仏教入門書として、一般の受講者を対象に講義が進められています。さらに、海外の教育機関への取り組みとして、海外子女教育財団を通じて、在外日本人学校に「仏教聖典」や「まんが仏教のひみつ」を寄贈することにより、在外日本人子女への日本の精神文化の伝達に一役買っています。

主要な頒布事業であるホテルへの寄贈活動は、国内は新規ホテル40軒を含め、14,014冊を寄贈、海外は主にブータン、スリランカ、ネパール等のリゾートホテルより注文があり、1,311冊寄贈いたしました。また2016年にブラジルで開催のリオデジャネイロオリンピックに向けて、ポルトガル語仏教聖典の寄贈も進めています。その他病院・行刑施設、また海外の寺院・団体などへの寄贈にも引き続き力をいれてまいります。

また仏教聖典の小冊子「ブッダのおしえ」は、京都の清水寺、奈良の東大寺総合文化センターをはじめ、多くの寺院・学校・博物館、また仏教関係のイベントなどで継続的に配布していただいています。



聖典頒布の様子、教育機関への贈呈と活用等

2 助成・表彰事業

Support / Commendation

平成26（2014）年度BDK Fellowship

「外国人留学生奨学金」制度のご紹介

「外国人留学生奨学金」制度は、海外から来日し仏教研究をする外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を、学問を通じ、弘く世界に伝えていただきたいとの願いから平成3（1991）年に設立されました。毎年開催される奨学金審査委員会は平成27（2015）年度までに第25回を数え、のべ60名以上の素晴らしい人材を採用してまいりました。元受給者の多くは現在、世界各国にて仏教学界の第一線

で活躍されております。第24回目となる平成26（2014）年度は、審査委員会による厳正な審議の結果、以下3名（アルファベット順）が選出されました。受給者より実際にBDK Fellowshipを受給した感想が届いておりますのでご紹介します。

※支給内容の詳細、応募方法等につきましては、仏教伝道協会公式ウェブサイトをご覧ください。

アントン・ルイス・カピストラノ・セビラ
(フィリピン国籍)

- 奨学金／外国人留学生奨学金
- 受給年／平成26（2014）年
- 受給時の所属機関／総合研究大学院大学（現在九州大学講師）
- 指導教授／末木文美士教授
- 研究テーマ／和辻哲郎の空の倫理学における諸ジレンマ

メッセージ

仏教伝道協会の存在はB
DK英訳大蔵經によつてよ
く存じ上げていました。仏
教書が無料で閲覧でき、私
のような発展途上国出身の

若手研究者にとって本当に
有難いものでした。その仏
教伝道協会から私が奨学金
を受給出来る機会を得た時
は、本当に嬉しかったです。
受給期間中の経済的支援
には、もちろん感謝してい
ますが、総合研究大学院
大学における博士号取得だ
けでなく、貴協会のほんの
小さな一部分でも自分が担

えたことは大変光栄な事だ
と思っています。

無事平成27（2015）
年3月に博士号を取得する
ことができ、またその後九
州大学に就職することが出
来たのも、仏教伝道協会の
支援があったからこそと感
謝の気持ちで一杯です。地

道に研究活動が続けていく
ことや学生たちの指導に於
いて成果を上げていくこと
が、仏教伝道協会への恩に
報いる唯一の方法だと思っ
ていますので、今後よりも
一層努力していきたいと思
います。

モニカ・キシユ（ハンガリー国籍）

- 奨学金／外国人留学生奨学金
- 受給年／平成26（2014）年
- 受給時の所属機関／大谷大学
- 指導教授／ロバート・F・ローズ教授
- 研究テーマ／普賢延命菩薩像の図像学的な変化

メッセージ

私が平成26（2014）
年の10月に来日して以来も
う半年が過ぎました（平成
27（2015）年3月末現
在）。日本滞在中に「日本
密教の普賢延命菩薩の図像
について」の博士論文執筆
のため出来るだけ多くの資
料を集めることを目標とし
ています。

毎日、京都の大谷大学に
通い研究をさせていただ
いているお蔭で、予想以上の
成果が上がっていることを
実感しています。現在まで
に日本と海外の寺院や美術
館（博物館）において、およ
そ80点程度の仏画や仏像を
発見しました。古物に限ら
ず、平安時代から現代まで
の比較的新しい絵画や彫刻

も調査しています。これらの文化的芸術品と真言や天台日本密教の経典や書物が私の研究の基本になっています。そして指導教官であるロバート・F・ローズ先生の指導の下、真言宗の覚禅抄や天台宗の阿婆縛抄、そして普賢延命を本尊にしている普賢延命法と延命法の英訳を始めました。

残りの6ヶ月は、仏画を調査するために出来るだけ沢山の普賢延命を所蔵している寺院を訪れたいと考えています。去年の11月には福岡市の展覧会に於いて大

山寺（大分県）所蔵の最古と言われる彫像を拝観し大変感銘を受けましたが、今後は広島県の持光寺や千葉県館山市立美術館へも行ってみたいと思っています。

今回BDK Fellowshipのお蔭で来日出来ることになり、仏教伝道協会には心から感謝しています。日本で出来る限りの研究を終え、今秋ハンガリーに帰国する頃にはしっかりと博士論文を完成出来るようになっていたいと思います。

ヴァン・アン・ティ・ボ（ベトナム国籍）

- 奨学金／外国人留学生奨学金
- 受給年／平成26（2014）年
- 受給時の所属機関／龍谷大学大学院 文学研究科 博士後期課程
- 指導教授／若原雄昭教授
- 研究テーマ／『瑜伽行派における修道論形成の研究』

メッセージ

平成26（2014）年度の仏教伝道協会「外国人留学生奨学金」を受給させて頂き、滞在期間中は、経済的事情に煩わされるこ

となく全ての時間を勉学に費やすことが出来ました。貴重な機会を与えていただきましたことをBDKの皆様に深く感謝申し上げます。



平成26（2014）年度BDK Fellowship

「日本人留学生奨学金」制度のご紹介

「日本人留学生奨学金」制度は、日本から海外に渡り国際的な視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから平成25（2013）年に設立しました。

第2回目となる平成26（2014）年度は、審査委員会による厳正な審議の結果、

以下2名が（五十音順）が選出されました。第2回の受給者の皆さんからの感想が届いていますのでご紹介します。

※支給内容の詳細、応募方法等につきましては仏教伝道協会公式ウェブサイトをご覧下さい。

岸 清香

■奨学金／日本人留学生奨学金

■受給年／平成26（2014）年

■受給時の所属機関／筑波大学大学院

■一貫制博士課程人文社会科学科学研究科 大学院生

■研究テーマ／大乘菩薩とは何者か — 大乘經典及び瑜伽行唯識学派の諸論書に対する註釈書群の比較検討 —

メッセージ

奨学金へ応募したきっかけは、博士論文を提出後、新たな研究課題のために海外での研究が必要としたからでした。瑜伽行唯識学派の典籍の一つである『大乘莊嚴經論』と、『大方大集經』の「無盡意品」や『宝積經論』といった大乘經典との関わりを分析するため、オ

ランダライデン大学にお

れるジョナサン・シルク教授の下で研究するのが最も良いのではないかと考え、留学準備をしていました。

実際に採用が決まった時、無事に留学できる条件が整い、これも仏のお導きののだらうと思ったこと、一層学問に精進できるのだと嬉しかったことを記憶し

ています。

現在は、上記に述べた通り、『大乘莊嚴經論』と諸經典との関わりを実際に検討しております。大乘經典と瑜伽行唯識学派の論書との関係性が明らかにできれば、大乘仏教思想の発展史の一端の解明の一助になりうると考えています。仏教伝道協会からの奨学金を受給することで、研究に専念することができ、海外でさまざまな研究者と交流する機会も得ました。今後は、海外での研究滞在で知り得た知識や経験を活かして、研究の発展と幅広い仏教思想の普及に努めていきたいと考えております。

渡辺 俊和

■奨学金／日本人留学生奨学金

■受給年／平成26（2014）年

■受給時の所属機関／オーストラリア科学アカデミー
アジア文化・思想史研究所

■研究テーマ／インド大乘仏教における論理学思想の受容とその系譜

メッセージ

BDK奨学金についてはIt Buddhismというインタ

ーネット掲示板で知りました。当時ウィーンでの研究プロジェクト満期まで一年を切り、新規プロジェクトを練っていた私は絶好のチャンスと思い応募しました。採用の通知をいただいた時は、協会の皆様およびご助力をいただいた先生方・同僚・家族へ感謝するとともに、新たなテーマでの研究遂行を思っ胸が高鳴ったのを覚えています。

現在私は、5世紀インドの仏教徒ディグナガ（陳那）によって整備された論理学が後代に与えた影響について調査していますが、このような視点から大乘仏教の展開を見ることが中観派と瑜伽行唯識派という二

まらない、密接な影響関係が明らかになると考えています。

また、所属先を国外の研究機関とする本奨学金の制度も、私にとっては国際的な研究ネットワークを構築するために非常に役立っています。平成27（2015）年にバンコクで開催される世界サンスクリット学会では現在の研究成果の発表に加え、現在所属する研究機関の同僚が主催するパネルにも参加する予定です。

今後はさらに中国および日本をも研究対象とし、仏教論理学がそれぞれの時代・地域の思想に与えた影響について明らかにできればと考えています。

第48回 仏教伝道文化賞

文化賞概要と受賞者の紹介

仏教伝道文化賞／沼田奨励賞

平成24（2012）年度より、従来の仏教伝道文化賞A項、B項、C項・功労賞の区分をなくし、長年に亘って仏教文化伝道に貢献のあつた方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を贈呈することとなりました。

第48回 仏教伝道文化賞

平成26（2014）年10月17日（金）、仏教伝道センタービル（東京都港区）にて贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行いました。贈呈式では、木村清孝選定委員長の審査報告に続き、沼田智秀会長より受賞者へ贈呈状ならびに記念品の楯を贈呈し、加えて仏教伝道文化賞を受賞した渡邊寶陽氏には賞金300万円、沼田奨励賞を受賞したジェローム・デュコール氏には賞金200万円がそれぞれ授与されました。贈呈式の後には祝賀披露宴が開催され、受賞者を祝う多数の皆さまにご出席いただきました。伊藤繁氏（武蔵野大学教授）によるエレクトーンの演奏にのせ終始和やかな雰囲気の中無事閉宴となりました。



受賞関係者と沼田会長



木村審査委員長による審査報告



記念品他を授与する沼田会長（左）文化賞受賞者渡邊師こ夫妻（右）



仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

ジェローム・
デュコール 氏

昭和29（1954）年スイス・ジュネーブ生まれ。浄土真宗信楽寺サンガの代表で、仏典をフランス語訳し、仏教を西洋文化圏に弘めています。



仏教伝道文化賞

渡邊 寶陽 氏

昭和8（1933）年東京生まれ。法華經研究、日蓮教学の分野で多大なる業績をあげ、立正大学学長、日蓮宗勸学院長等の要職を歴任し、後進の育成に尽力されています。



「いわて学びの希望基金」へ収益金を寄付：達増拓也岩手県知事（左）と沼田智秀会長（右）

写真展
Photo Exhibition

B D K 東日本大震災復興支援 ブッダのことばとインドの風景 ～今を生き抜くために～ 開催

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災以降、当協会では、義捐金や大学生を募り、宮城県気仙沼市でボランティア活動を実施するなど、被災地支援のために微力ながら尽くしてまいりました。

震災から4年が経過しましたが、未だ復興を支援する継続的な活動が求められる一方、時間の経過とともに復興支援への関心の薄れが憂慮されています。

震災は、多くの尊い命と平穏な生活を一瞬のうちに奪い、被災者の心にも深い傷を負わせました。私どもは震災により傷つき、苦しんでいる方がたの心に寄り添い、慈愛と真理に溢れたブッダのことばと情景豊かなインドの写真を通して、癒しと生きる活力を得ていただきたいと願い、協会設立50周年記念事業のひとつとして、「写真展 ブッダのことばとインドの風景 ～今を生き抜くために～」を企画、開催しました。

本企画は、公益財団法人中村元東方研究所の全面的なご協力を得て実現しました。展示するブッダのことばは、インド思想と仏教の世界の権威である中村元博士が翻訳されたブッダのことばから、仏教の説く四諦の教え、「苦諦（人生は苦なりという真実）」、「集諦（その原因は欲望、煩惱にあるという真理）」、「滅諦（その苦しみ）が転じて安らぎとなるという世界）」、「道諦（その安らぎの世界への実践道）」によって「一切のものは無常であ

る（諸行無常）」と明らかな智慧をもつてみるときに、ひとは苦しみから遠ざかり離れる」「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ、安樂であれ」といったことばを選びました。また、インドの取材写真による写真展「釈尊の足跡をたどって」で、アメリカ・プロフェッショナル写真家協会賞を受賞された写真家 丸山勇氏のご協力をいただき、仏教の聖地やガンジス河で沐浴する人びとなど、インドの風景や風俗、そしてブッダ・お

釈迦様の歩まれた足跡を捉えた40点の写真をブッダのことばと合わせて展示しました。

今回の写真展は、被災地の方がたにより多く見ていただきたいと願い、平成26（2014）年9月から10月にかけて、岩手県北上市・展勝地レストハウスで高橋敏彦北上市長ご臨席のもと挙行された開会式を皮切りに、岩手県宮古市・シートピアなあと、岩手県釜石市・イオンタウン釜石の3箇所を回り、合計約5,300名にご来場いただきました。

来場者からは、心が洗われるような写真・作品だった、インドは遠いけれども、写真を観て自分もこの地を訪れた様な感じがした、ブ



岩手会場（岩手県北上市）



オープニングでのテープカット（左から沼田智秀会長、高橋敏彦北上市長、高橋敏北ケーブルテレビ社長）

写真展「ブッダのことばとインドの風景」開催経過

開催期間	会 場	来場者数
平成26(2014)年 9月13日～28日	岩手県北上市 展勝地レストハウス	1,610名
平成26(2014)年 9月30日～10月13日	岩手県宮古市 シートピアなあと	2,532名
平成26(2014)年10月15日～19日	岩手県釜石市 イオンタウン釜石	1,090名
平成27(2015)年 3月10日～29日	東京都 相田みつを美術館ギャラリー	7,135名
合 計		12,367名

主 催：公益財団法人仏教伝道協会

企画協力：公益財団法人中村元東方研究所、NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所

後 援：インド大使館 公益社団法人在日インド商工協会 株式会社IBC岩手放送

ツダの深く高尚な教えに改めて感動したなどの感想が寄せられました。
引き続き、東日本大震災から4年目にあたる平成27(2015)年3月10日から29日まで東京・相田みつを美術館ギャラリーにて開

催しました。3月11日には、相田みつを美術館館長の相田一人氏、写真家の丸山勇氏、中村元博士のご息女である三木純子氏ご臨席のもと来場者の方がたとともに震災の犠牲になられた方々に黙祷を捧げ、哀悼の意

を表しました。
また、この相田みつを美術館ギャラリーでは、開催期間中約7,000名のご来場をいただきました。
この写真展の東京開催にあわせ、平成27(2015)年3月14日、東京・よみう

りホールにて、著書に『マイ・仏教』などがあるイラストレーターのみうらじゅん氏、独学で仏教を研究し、東京大学で仏教講座を開いたこともあるお笑いコンビ「笑い飯」の哲夫氏(中西哲夫氏)を招きトークイベン



岩手会場（岩手県宮古市）





岩手会場（岩手県釜石市）



東京会場（国際フォーラム内相田みつを美術館）



オープニングセレモニーで挨拶をされる
相田みつを美術館館長 相田一人氏



おもしろ仏教講座 超満員の会場

ト「東北復興チャリティー
おもしろ仏教講座」を開催
しました。
みうら氏は「仏教につい
て」をテーマに、哲夫氏は
「おもしろ仏教講座」と題
し、それぞれ独自の観点か
ら話を展開。約1,100名
の来場者で満席状態の会場
は終始笑いに包まれつつ、
穏やかなムードの中、新た
な側面から仏教の一端に触
れる機会となりました。

この写真展開催期間中に
寄せられた義捐金、書籍等
の売上、トークイベントで
の収益（2,342,358
円）はすべて、岩手県知事達
増拓也氏を通じて、震災で
親を失った児童、学生たち
の学業支援のために設けら
れている「いわて学びの希
望基金」へ寄付しました。

仏教伝道協会では、今後
も被災地、被災者への思い
を忘れることなく、さまざま
な形を通して支援を継続
してまいりたいと考えてい
ます。



みうらじゅん氏



「笑い飯」 哲夫氏

特別インタビュー

公益財団法人

全国教誨師連盟のご紹介

仏教伝道協会では仏教精神、仏教文化の興隆活動を積極的に展開している国内外の団体等への助成支援事業を展開しております。今回は、長年その活動を支援させていただいている「公益財団法人全国教誨師連盟」の理事長 近藤哲城師（浄土真宗本願寺派 光西寺 住職）にお話を伺いました。

◎聞き手・撮影：公益財団法人 仏教伝道協会 江口郁
◎場所：浄土真宗本願寺派 光西寺（川越市）

——まずは「公益財団法人全国教誨師連盟」の活動内容についてお聞かせ下さい。

全国の刑務所や拘留所、少年院、鑑別所等の矯正施設の中で、死刑確定者、受刑者、非行少年等の被収容者に対して精神的、倫理的、宗教的な支援を行っている人たちを「教誨師」と呼んでいます。簡単に申しますと、施設の中で、被収容者の希望する宗教の話や儀式、また宗教一般の講話を行ったり、個人面談を通し

て、宗教や信仰上の悩みの相談を受けるなどボランティアとして活動している人たちのことです。現在全国で活動している教誨師の数は1,900名弱。仏教系、キリスト教系、神道系、諸教など多くの教宗国から参加をいただいております。

こうした「教誨師」の活動をサポートすることが、連盟の役割です。現在全国八つの管区連盟に分かれて活動しており、それを統括する形で「公益財団法人

全国教誨師連盟」があります。その活動内容としては、中央研修会の開催や全国大会の開催、機関誌「教誨」の発行等があります。その他には、「教誨師」に対する認知度を高めるべく、広報誌の発行も計画しております。

——では「教誨」活動をする際に特に気をつけられていることがございましたらお聞かせ下さい。

大切なことは、被収容者の立場に立つて話したり聞いたりするということだと思います。常に親和的、許容的、共感的な態度で臨むことです。批判的、避難的、評価的な態度で臨むことは慎まなければなりません。真剣な語り合いの中から心を開き、正しく自分を見つめて自分の問題に取り組もうとする思いに目覚めていくのであれば有難

いことです。

もう一つは、施設職員との意志の疎通です。そのためには所内の行事（施設によって異なるが、運動会、盆踊り、文化祭などが、運動会、盆踊り、文化祭など様々な催しが所内で行われている）に積極的に参加することです。施設職員と会う機会をたくさん作って信頼関係を深めておくことも大事なことです。

——なぜ「教誨」活動が必要だと思われるか。

日本国憲法では「宗教の自由が謳われていますよね。何人に対してもこれを保障する」と記載されています。それは被収容者にも当てはまることで、彼らにも宗教の自由が保障されているということ。しかし、同じ憲法の条文に、国家公務員である刑務所や少年院の職員が個々の宗教に関わることは許されな

いという規定があります。自由が拘束されている（自由刑）というのが日本の刑罰ですので、そのままではお寺や教会を訪ねて行って話を聞いてくるというわけにもいきません。ですから私たち宗教家が施設に向いて話をしたり、儀式を行ったりしている訳です。それによって彼らの宗教の自由が保障されているということになります。もしも教誨師の活動がなければ、被収容者の宗教の自由は約束されないことになります。

——「教誨」することによって受刑者の心に何らかの変化が起これるのでしょうか。

面会時に親や身内の訃報を知ったり、被害者が亡くなったたりしている場合などは、そのことがきっかけでお勤めをしてほしい、法要をしてほしいという気

持ちになる人がいます。法要を行いますと、遭難教誨（そうもきようかい…身内の死に遭う）では、深い感謝の思いが育てられます。忌日教誨（きじつきようかい…被害者供養）では申し訳ない思いが深くなります。教誨を繰り返す中で亡くなられた方への思いに涙する人もいます。

私の所属している施設は少年刑務所といって、YA（ワイ・エイ…Yは20歳から26歳までの若い人を対象として、Aは犯罪傾向が進んでいない初犯の人をさしています）の人が収容されている施設です。刑が決まり施設に入所しますと、始めの3週間ほどは入所時の教育（オリエンテーション）を受けます。その前期は単独室（一人用個室）で生活します。後期は共同室（6人から10人）という集団室に移ります。集団生活に慣れていない人はそんな時に、また出所するときにも精神的に不安定になる人もいます。普段家族との折り合いが悪く、出所するとその家族とまた一緒に暮らさなければならぬという思いから不安にかられるという場合もあります。そういった時に教誨を一度行うこと

で不安の消える人もいれば、なかなか解消しない人もいます。

——そう言った場合にはどう対処されるのですか。

一度の教誨でいろいろと話したことで、また教誨師に聞いてもらったことで、心に溜まっていたわだかまりがなくなつて安心して戻っていく人もいますが、そうでない時は、何度も繰り返し話を聞きます。本人と家族との関係性は重要です。特に母親との折り合いが悪い場合などは、重い不安定状態になる人が多いように思います。しかし、実際の出所時にはその母親が身元引受人となる場合が多いのです。出所後の身元を引き受けるということとは家族にもかなりの覚悟が必要なことです。そのような状況でもあなたの身元引受人になるのだから」というような話をします。本当に嫌ならば身元引受人にはならないはずなので、心底見放したわけではないうのです。そういった話をしながら出所前の不安定な状態を少しでも緩和できるようにします。

——「教誨」活動の社会に与える影響と役割をどのようにお考えでしょうか。

まず教誨活動は「施設内」の活動です。教誨は、宗教の持つ重みや深み、またそれを伝える教誨師の人間性や宗教観が相まって、宗教的情操がゆつくりと自然に養われ、被収容者に精神的な安らぎを与え穏やかな気持ちを以て社会に戻っていくことの出来るきっかけ作りをする仕事だと思っています。彼らが社会復帰した後でも、宗教心を忘れずに生活していくことができれば、再び罪を犯さない、犯せない人間育成につながるのだと思います。教誨の仕事は被収容者の改善更生が直接の仕事ではありません。しかし、彼らの心に宗教に対する思いを芽吹かすことができれば、あとは宗教の力が大きな働きをしてくれるものと信じています。

そうした意味では教誨の副次的な作用として「改善更生」に関わっていることになるかもしれないですが、現在の私たちの活動は施設の中だけで施設の外との連携が図れていません。これからは保護司や更生保護施設など



との関わりが大切であると感じています。個々の教誨の機会が増えて、より多くの被収容者と関わることで、ひいては教誨師が社会と深く関わっていくことだと信じています。私たちの活動が犯罪のない社会を形成することの一助となれば嬉しいことです。

——今後の教誨師連盟の活動の展望はいかがでしょうか。

一つは「広報活動」の充実があげられます。世間で「教誨師」といいまでも、よく「どんな仕事をしているのですか」という質問が返ってきます。刑務所の仕事をしていたり、宗教関係者には通じるかもしれませんが、一般では「教誨師」という言葉は浸透していません。このたび内閣府より公益財団法人としての活動の許可をいただきましたが、諸活動をしていくうえでの費用を捻出していくためには寄付を募ることは不可欠なことです。その為には広報誌等を作り宣伝をしっかりとっていくかねばなりません。

そしてもう一つは教誨師の現場の問題です。教誨師の現状を見ていますと女性の教誨師や若い教誨師が非常に少ない状況にあります。特に女性の教誨師について言えば現在60名程しかいません。例えば、女性施設でありながら女性教誨師が一人もいないところもあります。以前から問題になっていてもなかなか改善されないのが現状です。女子刑務所では女性特有の問題などについて相談がしづらい面があります。勿論、女性の施設職員の方がたも多々いますが民間人であり宗教家である女性教誨師に話を聞いてもらいたいという被収容者は少なくありませんし、



公益財団法人 全国教誨師連盟 理事長

近藤 哲城 師

(浄土真宗本願寺派 光西寺 住職)

少年施設等でもお母さんのような存在として女性教誨師が望まれています。女性教誨師が増えてくると施設の状況もまた違ってくることでしょう。また少年施設ではあまり少年たちと歳の離れていない若い教誨師が必要とされていますが、この需要にも応えられていません。こうした需要が満たされれば教誨の現場が活気づいてくると思います。

——では、なぜ女性や若い教誨師さんが少ないのでしょうか。

各宗派によって教誨師になる資格や制度というのは異なっています。例えば浄土真宗本願寺

派でいえば、まず浄土真宗本願寺派教誨師資格があることが前提条件で、それ以外には当該教区の教務所長の推薦が必要となります。こうした条件をクリアしていくとなると必然的に該当者が少なくなります。またボランティア活動であるため、生活面での余裕や自分の寺の法務代行をするものがあるかなど。

そして教誨は一人で行うものですので、常に研修等に参加して自分の教誨の在り方を検証していかなければなりません。研修に参加するためには費用も時間も必要になりますので、そういった問題もあるかと思っています。

より多くの被収容者と関わることで、 教誨師が社会と深く関わっていくことだと信じています

◆その他「公益財団法人 全国教誨師連盟」の活動に関するお問い合わせやご寄付は下記まで直接お願い致します。

〒165-0026
東京都中野区新井三丁目37番2号
矯正会館内
TEL：03-3389-7411
FAX：03-3387-3460
E-mail zenren@soleil.ocn.ne.jp
<http://www6.ocn.ne.jp/~zenkyo/index.html>

＜寄附金受付口座＞

郵便振替口座 00130-4-0046544
ゆうちょ銀行 ○一九店
当座 0046544
公益財団法人全国教誨師連盟

——ありがとうございます。
最後に仏教伝道協会の活動について何かお考えがございましたらお聞かせ下さい。

仏教伝道協会の「仏教聖典」は現在までに46言語に訳されているというのを伺いました。大変に尊く有難い事業をされていると思います。現在(平成26年10月現在)、府中刑務所では59ヶ国2地域、48言語の被収容者の対応をしているそうです。入所している外国の人たちにとりましては見知らぬ国で、しかも施設での生活に大きな不安を抱いているかと思っています。自分の国の言葉に翻訳された聖典を開いて、感

動を覚える方もきっとあることでしょう。施設によっては輪読会に使用しているところもあると聞いています。仏教精神の伝播や日本文化の受容にも大変寄与されていることと感じています。

冒頭でも申し上げましたが、私どもの「教誨」活動は完全なるボランティア活動ですので、仏教伝道協会からの助成は大変有難いことです。この厚意に對して私たちのできることは、熱意を以て与えられた一回一回の教誨の機会を大切にしていこうことだと思っています。

01 Activity

第44回実践布教研究会
於 臨済宗妙心寺派 大本山妙心寺

平成26(2014)年6月3日(火)から6日(金)にわたり、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺(京都府京都市)にて、「布教伝道く臨済禅に学ぶ」をテーマに第44回実践布教研究会を開催しました。



本研究会は、現代に生きる僧侶たちが宗派の垣根を越え、各宗派で実践される修行等を自ら体験し、これらを通じて日本文化の基本である仏教のあり方を考え、それぞれの地域へもどつて、それらを各自が具体的な形で伝え弘めていくことを目的としています。毎回各宗派、世代を越えた参加者同士の交流や意見交換も盛んに行われ、昭和45(1970)年の第1回から平成26(2014)年で44回を数える歴史ある研究会です。

今回は、タイからの僧侶1名を含む、全国各地より各宗派の僧侶および寺院、21歳から82歳までの幅広い年齢層の男性45名、女性10名の55名の方がたにご参加いただき、2泊3日の研修を行いました。



坐禅や薬石(禅宗作法による食事)の実践をはじめ、西村恵信先生(題…「禅に学ぶ」)、佐々木閑先生(題…「日本仏教の未来」)、安永祖道先生(題…「臨済禅のころ」)の3名の講師(講義順)による講話を、そして臨済宗妙心寺派管長 嶺興嶽 猊下より提唱をいただきました。また「日本仏教の未来く僧侶の原点を考える」をテーマ(テーマは毎回変更となります)とし、参加者同士がグループ毎に話し合いを持つ分科会の開催など、大本山妙心寺を挙げてのご支援のもと、大変有意



義な研究会となりました。参加者の方がたからも、「臨済禅を実地で学び、坐禅をするということは自分を問いなおす上で、基本的な修行だと学ばせていただきました。」「妙心寺の修行の厳しさに初心に戻ることができた。」「他宗についての知識が皆無だったので大変良い体験ができました。」「他宗の方がたとの交流で、それぞれの宗派の考え方に触れることができた。」など、次回以降の研究会へとつながる多くのご意見・ご感想をいただくことができました。

02 Activity

三田落語会

「三田落語会」では、柳家権太楼師匠（紫綬褒章受章）や林家正蔵師匠などの個性豊かな顔ぶれによる古典落語を、仏教行事と多く重なる偶数月に開催しています。

法華信仰が盛んであった江戸の古き良き人情を扱った「甲府い（日蓮宗・法華宗）」や、荒れ果てた古寺を舞台上に二人の男の身振り手振り、振りの会話により紡がれる偶然が笑いを誘う問答合戦を描いた「菟蓐問答（曹洞宗）」など、古典落語は仏教と大変縁の深いものです。



仏教伝道センタービル 8 階「和」にて開催（林家正蔵師匠）

03 Activity

仏教聖典を 初歩英語で学ぶ会

「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」は、ケネス田中 (Kenneth Tanaka) 先生(武蔵野大学教授・同大学仏教教育部長) のご指導のもと平成 24 (2012) 年 9 月に開講しました。

平成 24 年度は『和英対照仏教聖典』を、平成 25 (2013) 年度は『日本の仏教宗派』(当財団刊行) を、平成 26 (2014) 年度は「TV 説法」(当財団監修) の DVD を、それぞれテキストとして使用し、幅広い観点から「仏教を英語で学ぶ」勉強会として、日本人の方はもちろん、外国の方がたからもご好評をいただいております。

平成 27 (2015) 年度

仏教の教えに、言葉の節をつけて表現する「節談説教」は、落語のルーツとされています。現代落語や日常生活の会話のなかでも頻繁に使われる「前座」や「手ぬぐい（＝まんだら）」などといった言葉も、この「節談説

教」をルーツにしていると言われています。

「三田落語会」は、埋もれている数多くの噺の本来の意味や「正しい姿」として継承された落語を、広く一般の方がたにお楽しみいただき、また本格的な落語会としても



仏教伝道協会では、日本人に馴染み深い東洋思想の叡智である「仏教思想」に「初歩英語で親しむ」ことの出来る貴重な機会をこれからも皆さまに提供し続けていく予定です。

開講スケジュール等の詳細は、当財団公式ウェブサイトをご覧ください。

長年親しまれています。今後の開催スケジュールやチケット購入等、「三田落語会」の詳細は、公式ウェブサイトをご確認ください。

<http://mia-takugo.com/>

04 Activity 仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会 合同夏季研修会

仏教伝道協会では、月に一度、経営者の方がたを対象として「人を大切にする経営を」、一般の社会人の方がたには、「人生の道標の一助となるように」、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの人が触れていただくことを目的に「仏教聖典を経営に活かす会」を開催しています。

同じく月に一度開催しているのが「仏教聖典を生活に活かす会」です。宗派にと

本願寺派本願寺、天台宗妙法院門跡、三十三間堂を拝観しました。

「仏教聖典」をテキストとした、ユーモア溢れる講師の話と和やかな雰囲気の中で、仏教精神に触れることが出来る機会となっています。

普段は一般の立ち入りを許可していない場所へも特別に拝観することを許され、各所で丁寧且つユーモア溢れるご案内をしていただき、参加者からは随所で僧侶の方がたへの質問が出ました。それら一つ一つに

通常別々の講座として運営している両会ですが、年に一度合同の「夏季研修会」を開催しています。平成26

お答えいただき参加者にとっても大変有意義な時間となり、より一層仏教に興味を持たれた様子でした。

(2014)年度は、8月30日(土)より1泊2日で京都にて開催しました。

1日目は、天台宗寂光院門跡、天台宗三千院門跡を拝観し、2日目は浄土真宗

でもお経を読んでみたい」という声もあがりました。

また、三十三間堂で有名な天台宗の寺院、妙法院門跡では菅原信海御門主より御言葉も頂戴することができ、大変貴重な時間をいただきました。

いつもの「活かす会」ではお互いに挨拶程度だった皆さんも、夏季研修会における新たな出会いにより、互いに親しみをもち充実した時間を過ごされたようです。今回の参加者は30名ほど(事務局含む)でしたが、このような取り組みが今後の「仏教聖典を経営に活かす会」、「仏教聖典を生活に活かす会」の更なる活性化につながっていくことを願っています。

※「仏教聖典を経営に活かす会」ならびに「仏教聖典を生活に活かす会」の詳細は、当財団公式ウェブサイトをご確認ください。



浄土真宗本願寺派 本願寺にて



阿純章 師

働く人のための坐禅会

阿純章 師 (天台宗 円融寺 住職)

●坐禅会は、阿純章師（天台宗円融寺住職）のご指導のもと、平成25（2013）年度にスタートして以来多くの方がたにご参加いただいています。



発足当初の平成25（2013）年度は「女性のための坐禅会」として始まりましたが、平成26（2014）年度からは、性別を問わずご参加いただける「働く人のための坐禅会」として新たにスタートしました。できるだけ多くのビジネスパーソンにご参加いただけるよう開催時間や参加形態等の様々な点に変更を加え気持

ちも新たに運営を続けています。
「働く人のための坐禅会」でも、従来のスタイルはそのままに、20代から60代の幅広い年齢層の方がたにご参加いただいています。参加者数も前年度より1・5倍に増え（平成26年度…155名、平成25年度…108名）、ストレスの多い現代社会で忙しく働く参加者の皆さまに、ゆっく

りと自分自身に向き合う機会を提供させていただいています。
ご好評につき、平成27（2015）年度も前年度同様、「働く人のための坐禅会」として、原則毎月第3火曜日に開催させていただきます。詳細は、当財団公式ウェブサイトをご確認ください。

平成27年度BDK坐禅会スケジュール

4月14日（火）	20：00～	10月13日（火）	20：00～
5月26日（火）	20：00～	11月17日（火）	20：00～
6月30日（火）	20：00～	12月17日（火）	20：00～
7月21日（火）	20：00～	1月19日（火）	20：00～
8月	【お休み】	2月16日（火）	20：00～
9月15日（火）	20：00～	3月22日（火）	20：00～

※諸事情により開催日程が変更になることがあります



平成26(2014)年度 BDKシンポジウム

Symposium

～私と仏教～

仏教伝道協会では、平成26(2014)年度の年間テーマを「私と仏教」とし、メディアや現場で活躍中の著名人を講師とし、全3回のシンポジウムを企画しました。それぞれ講師自身に副題を付けていただき、「自分にとっての仏教」という問いを基軸に、経験や思いを語っていただきました。



第

1回目は、執筆活動でも活躍される、弁護士の大平光代氏を講師にお招きし、「私と仏教…仏教の智慧で暮らしを豊かに」を開催しました。講演では、忙しくまた苦しみの多い日常の中で、仏教の智慧でいかに心豊かに暮らしていけるのかということをご自身の経験をもとにお話しいただきました。どんなに辛いことがあろうとも、その中にこそ幸せがあるという言葉が来場された方がたに響いたようです。

続く第2回目は、評論家として様々なメディアで活躍されている宮崎哲弘氏を講師にお招きし、「私と仏教…なぜ「必要」なのか？」を開催しました。この講演では、自身の経験の中で培われた仏教の必要性についてお話いただきました。幅広い知識と深い仏教哲学によって確立された宮崎氏の独自の見解は、新しい視点で現代社会を理解し、より良く生きるヒントを提示してくれました。

そして今年度最後となる第3回のシンポジウムで

は、「私と仏教…生きづらいつても活躍される、弁護士の大平光代氏を講師にお招きし、「私と仏教…仏教の智慧で暮らしを豊かに」を開催しました。講演では、忙しくまた苦しみの多い日常の中で、仏教の智慧でいかに心豊かに暮らしていけるのかということをご自身の経験をもとにお話しいただきました。どんなに辛いことがあろうとも、その中にこそ幸せがあるという言葉が来場された方がたに響いたようです。

毎回定員を大幅に超える皆さまよりご応募いただき、出席者からは「今後もシンポジウムを続けて欲しい」との声が多く寄せられました。仏教伝道協会では、今後も様々な視点でシンポジウムを企画し、より多くの皆さまと仏教との架け橋になることができるよう尽力していきます。

※平成27(2015)年度BDKシンポジウムの開催予定につきましては当財団公式ウェブサイトにてご確認ください。



各講演概要・講師略歴



第1回

テーマ：「私と仏教：仏教の智慧で暮らしを豊かに」

開催日：平成26（2014）年5月16日（金）

時 間：13：00～15：00

講演者：大平光代（おおひら みつよ）

略歴●1965年兵庫県生まれ。2003年12月～2005年10月まで大阪市助役。
中央仏教学院通信教育部専修課程卒業。弁護士。龍谷大学客員教授。



第2回

テーマ：「私と仏教：なぜ「必要」なのか？」

開催日：平成26（2014）年9月3日（金）

時 間：18：00～19：40

講演者：宮崎哲弥（みやざき てつや）

略歴●評論家。1962年福岡県生まれ。慶応義塾大学文学部社会学科卒業。
政治哲学、仏教論、サブカルチャー分析を主軸とした評論活動をテレビ、新聞、雑誌などで行う。



第3回

テーマ：「私と仏教：生きづらい社会を生きるために」

開催日：平成27（2015）年3月17日（火）

時 間：18：00～20：00

講演者：香山リカ（かやま りか）

略歴●精神科医・立教大学現代心理学部教授。1960年北海道生まれ。東京医科大学卒業。
豊富な臨床経験を活かして、現代人の心の問題を中心にさまざまなメディアで発言を続けている。専門は精神病理学。

ちよつと
ひと休み

現代人のための 仏教的食育のすすめ

飯沼康祐師（天台宗福昌寺副住職・料理僧）に教わる

自宅で簡単/精進レシピ

取材・撮影●公益財団法人仏教伝道協会 江口郁
写真協力●友光雅臣



豆腐の味噌ラグースパゲティ（ミートソース風）

食の安全や健康的な食生活が注目される昨今、皆さまは自らの口に入れる食べ物にどれだけの関心をお持ちでしょうか。時にはちよつとひと休み、天台宗福昌寺副住職で、料理僧としてもご活躍の飯沼康祐師に「食育」

についてお話を伺いました。そして料理を通してより心豊かな生活を送ることができるよう、本誌の為に身近で手に入りやすい材料を使った精進レシピを考案、紹介いただきました。



飯沼康祐 ●天台宗福昌寺副住職。昭和57(1982)年川崎市生まれ。19歳の夏に比叡山延暦寺で出家得度。大正大学在学中に食を通じた布教に興味を持つ。卒業後、都内飲食店で料理修業をしながら調理師免許取得。現在お寺を中心に各地で精進料理会を開催。主なものとして「坐りびと・旬粥」(まちのお寺の学校)、「時をみる会」など。

また「料理僧三人衆」のひとりとして、「ダライ・ラマ法王と若手宗教者100人の対話」などでも料理をふるまう。

来由を考え感謝の気持ちを持たなければ 精進料理はただの野菜料理になってしまいます

お蔭さまのころを観る 仏教的食育のすすめ

お寺で精進料理をきっかけに仏教にふれていただく会をはじめて丸5年が経ちました。季節感、素材を余すことなくいただくことをテーマに食事をととのえ、毎回皆さまには笑顔でお参りいただいております。

仏教をひらかれたお釈迦さまの教えの中に「中道」というものがあります。私は中道の教えは生活全ての事柄に通じ、最も大切で普段から実践しやすいものの一つだと思っています。

約2500年前、インドの釈迦族の王子として生まれ、何一つ不自由のない暮らしをしていたお釈迦さまは、人はなぜ生まれ、老い、病み、そして死ぬのかという疑問を解決するため、全てを捨てて修行にはいりました。長い間、苦行を続けられましたが、苦しいだけでは安穩は得られないと気づき、川で身体を清め、村娘スジャータから乳粥の施しをうけ、心も身体も穏やかな状態で菩提樹の根元で坐禅を組み、悟りをひらかれました。

お釈迦さまは城での享樂的な生活や、断食のような苦行のどちらが良いわけではなく、どちらにも偏らない中道こそが大事だとお気

づきになったのです。

精進料理では淡味と呼ばれる素材本来の持ち味を尊びます。甘味、酸味、塩味、苦味、辛味の五味いずれかに偏ってしまつては淡味を引き出すことは出来ません。また人それぞれ味の好みが違いますので、食べる人を想い、味の塩梅を調整することも中道の一つです。また、精進料理には厳格なルールがあり、肉、魚、卵やチーズ、バターなどの乳製品はもちろんのこと、五葷とよばれるニンニク、ニラ、ネギ、タマネギなどの香りが強く精がつく野菜もタブーです。しかしこれはいわゆるハード面であつて、ソフト面があつてこそこのもの

です。食事の来由を考え、丁寧に感謝の気持ちを持ちながら、食事をいただくかなければ精進料理はただの野菜料理になってしまいます。

山川草木悉有仏性といわれ、万物全てに生命が宿るとされていま

す。私たちは動物性、植物性にかかわらず生命をいただき、また食事に携わる全ての人の時間といった宿命をいただきながら生きています。そして何もこれは精進料理に限ったことではなく、普段の食事はもちろんのこと、生活全てにわたるものです。365日欠かすことの出来ない食事から「お蔭さまの心」を観じ、心ゆたかに暮らす一助となることを願います。



福昌寺境内

豆腐の味噌ラグースパゲティ (ミートソース風)



材料(2人前)

①木綿豆腐	200g (よく水きりする)
②糸こんにゃく	100g (1/2パック)
③しいたけ	2個 (細かく刻む)
④トマトホール缶	1/2缶
⑤パセリ	適量 (細かく刻む)
⑥好みの味噌	大さじ1と1/2
⑦みりん	大さじ1
⑧塩	適量 (お好みで調整してください)
⑨水	90cc

その他の具材

①好みの季節野菜やきのこ類 (掲載写真)	②スパゲティ	160g
しめじ 1/2パック	③醤油	大さじ1
大根 80g (いちよう切り)	④塩	適量 (お好みで調整してください)
人参 50g (いちよう切り)	⑤オリーブオイル	適量 (お好みで調整してください)
	⑥水	90cc



作り方

- 1 オリーブオイルで①～③をしっかりと炒める。



ここがポイント! できるだけ強火で豆腐の水分を飛ばしながらほぐしていきましょう。しっかりと水分をとばすことで豆腐に味が染み込みます。



- 2 1に④～⑨を加え煮立ったら5分ほど中火で焦がさないようにかき混ぜながら煮込み、ソース状になったら豆腐の味噌ラグースソースの完成。



ここがポイント! ソースは別の容器に移し粗熱をとった上で一日冷蔵庫でねかせると、より味が馴染みまろやかになります。



- 3 フライパンにオリーブオイルをひき、好みの季節野菜に塩をして強火で炒める。

水(90cc)を加え、煮立ったら2分ほど中火で煮込む。



ここがポイント! 野菜は出来るだけくたくたになるまで炒めましょう。ソースやスパゲティと合わせた時に口当たりがより優しく仕上がります。

- 4 3に2と茹であがったスパゲティを加え、醤油(大さじ1)とオリーブオイル(大さじ1)を加えお好みで塩(適量)をふり、混ぜ合わせたものを皿に盛り付ける。彩りのパセリをふりかけて完成。

海外協力機関のご紹介

北米圏

アメリカ

ハワイ

カナダ

メキシコ

南米圏

ブラジル

アジア圏

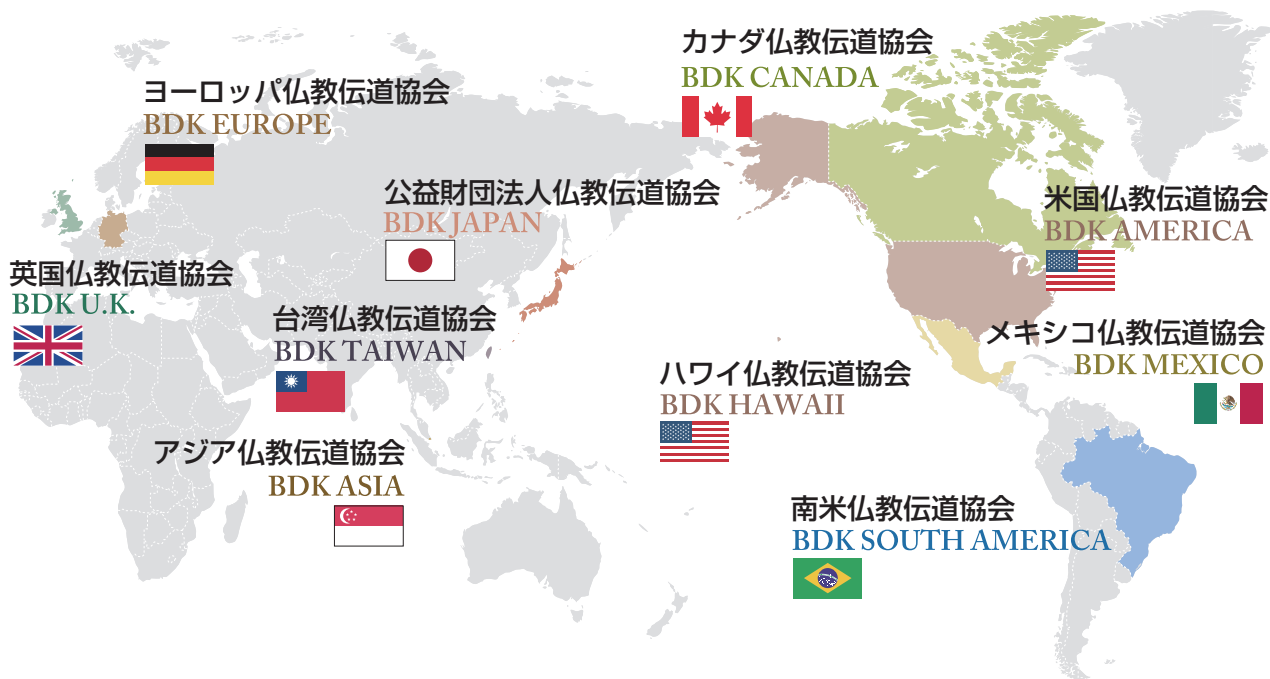
台湾

欧州圏

ドイツ

イギリス

当財団では、同じ目的を持つ海外の団体と協力し、さまざまな公益事業を行っています。特に米国、ハワイ、カナダ、メキシコ、ドイツ、イギリス、ブラジル、シンガポール、台湾にはそれぞれ独立した仏教伝道協会があり、世界中のホテルや施設等への「仏教聖典」の頒布活動を互いに協力し推進しています。仏教の説く慈悲と共生の精神を世界のひとりでも多くの人に伝え、人類の幸福と世界平和の実現を目指し、グローバルな活動を展開しています。



お問い合わせ一覧

●各国での「仏教聖典」頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 school Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
E-mail: orders@bdkamerica.org (対応言語: 英語)
<http://www.bdkamerica.org>

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1757 Algaroba Street,
Honolulu, HI 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622
E-mail: bdkhawaii@gmail.com (対応言語: 英語)
<http://www.bdkhawaii.com/>

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-1261 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com (対応言語: 日本語・英語)

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Prolg. Eugenia No. 17, Col. Nápoles, C.P.03810
México D.F., MEXICO
Tel/Fax: +52(55)5669-1088
E-mail: bdkmexico@prodigy.net.mx (対応言語: 日本語・スペイン語)

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Av. João Carlos da Silva Borges, 1240 CEP 04726-002,
Cx. Postal 4255, Santo Amaro, São Paulo-SP, BRAZIL
Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語)

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe (EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.)

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, F.R. GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: pool@eko-haus.de (対応言語: 日本語・ドイツ語)
<http://www.eko-haus.de>

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hants SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: bdk@mitutoyo.co.uk (対応言語: 日本語・英語)

日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN (R.O.C)
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: sharon@mitutoyo.com.tw (対応言語: 日本語・英語・中国語)



米国仏教伝道協会

NORTH AMERICA



京都講演（龍谷大学）



2013年受賞者
ダニエル・アーノルド博士

平成25(2013)年度
沼田智秀仏教書籍優秀賞
受賞者 来日記念講演

西洋における仏教学研究のさらなる発展を目的とし、公益財団法人仏教伝道協会の全面的支援のもと、平成21(2009)年カリフォルニア大学バークレー校(UCバークレー)の仏教学センターに沼田智秀仏教書籍



東京講演（東京大学）

優秀賞 (Toshitake Numata Book Prize in Buddhism: 通称 Toshi Prize) が設立されました。毎年、米国で審査委員会が開催さ

れ、厳正な審議の上、英語で執筆された仏教学術書籍の中から最も優秀な書籍が選定されます。受賞者には賞金が贈呈され、受賞式と記念講演が

米国バークレーで開催されます。

平成26(2014)年6月に、平成25(2013)年度の沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞者のダニエル・アーノルド博士(Dr. Daniel Arnold (シカゴ大学))を日本に招待し、受賞作品『Brains, Buddhas, and Believing: The Problems of Intentionality in Classical Buddhist and Cognitive-Scientific Philosophy of Mind.』(邦題: 脳・ブッダ・信仰: 原始仏教と認識科学の心の哲学における志向性の問題)をテーマとした記念講演会を開催しました。

演題を「Is Madhyamaka Buddhist? : In Defense of a Radical Interpretation of Nāgārjuna(邦題: 中観派は仏教なのか? : 龍樹の解釈に焦点を当てて)」とし、平成26(2014)年6月23日(月)に東京大学、6月25日(水)に龍谷大学で記念講演を開催し、両日とも50名を超す教授・研究者・学生のご参加をいただきました。参加者は西洋における最先端の仏教学研究に終始真剣に耳を傾けていました。

(講演内容は、当協会公式ウェブサイト上の「BDK動画配信」にて閲覧可能です)



ハワイ仏教伝道協会



カナダ仏教伝道協会

NORTH AMERICA



説法講座参加者とタナベ理事長（一番右）：ハワイ・ヒロにて

平成27（2015）年は公益財団法人仏教伝道協会の設立50周年という記念すべき年ですが、BDKハワイは今年設立から37年目を迎えます。「仏教聖典」の頒布を主な活動と位置づけ、より多くの方がたに仏教への理解を深めていただけるような活動を心がけています。財団設立を發願した沼田惠範の遺志を継ぎつつも、急激な経済・科学技術の発展の中、時代に即した新しいアプローチが必要だと考えています。

ホテルや寺院への書籍頒布に加え、平成26（2014）年からは電子書籍（Kindle対応版）の頒布も開始し、アメリカはもとよりイギリス、ドイツ、イタリア、スペイン、フランス、カナダ、日本、インド、メキシコやオーストラリアからも購入依頼をいただいています。

平成25（2013）年度も開催した「僧侶のための説法講座」は好評につき今年度も引き続き開催させていただくことになりました。浄土真宗本願寺派の全面的な協力のもと今回はオアフ島ではなく、前回より要望の高かったハワイ島での開催となりました。

また平成27（2015）年は僧侶自



BDK Canada Graduate Scholarship 「BDKカナダ大学院生奨学金」 制度のご紹介

「BDKカナダ大学院生奨学金」は、平成16（2004）年にBDKカナダ

身のみならず、寺院に向けてのワークショップも企画しています。ここハワイでも日本の仏教伝道協会のように新たな仏教音楽の発展を目指していますが、当地では若年層をターゲットとしている為、ブッダの教えを地元の音楽家たちと共にバラード、ヒップホップ、ジャズ、ロック調の音楽にのせて伝える試みを始めています。

そしてBDKフジタニ異教徒間プログラム「平成15（2003）年に前BDKハワイ理事長のヨシアキ・フジタニ氏が設置。シャミネード大学との共同プログラムとしてスタート。」では「キリスト教、仏教、ユダヤ教における読経や法衣に見られる宗教的伝統」を考察するシンポジウムや「ミ

によって設立され、その後の運営をマクマスター大学（在カナダ・ハミルトン）が担っています。カナダの大学に在籍またはカナダ国籍を有する大学院生であることを条件に、2年に一度のペースで現在までに計6名を選出しています。採用後は1年間日本の大学において研究生活を送ることができ、将来の研究者を志望する学生には大変魅力的な内容となっています。既に北米地区において活躍している元奨学生もおり、毎回優秀な人材を輩出しています。

平成24（2012）年受給者として選出されたChris Jensen（クリス・ジ

ヤンマーにおける仏教徒とイスラム教徒」についての公開講座などを開催しています。

BDKハワイでは、これらの活動が多くの方がたに仏教の新たな側面と伝統を提供する架け橋となるよう、常に移りゆく社会の中でこそ新たな挑戦をしていきたいと考えています。

※その他ハワイ仏教伝道協会の活動に関する詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。

エンセン氏は、マクマスター大学博士課程在籍の大学院生で、カナダでは同大学のジェームス・ベン教授の指導を受けています。日本では京都大学の船山徹教授のご指導の下研究を進め、現在、「東アジアにおける仏教と『睡眠と夢』との関わり」を主な研究テーマとして博士論文の執筆中です。

※その他「BDKカナダ大学院生奨学金」制度に関するお問い合わせやBDKカナダの活動の詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。

メキシコ仏教伝道協会

NORTH AMERICA



安倍首相夫人を囲んで
(安倍首相夫人：前列中央、「茶えん」女将桂氏：後列左から2人目)



坐禅



剣道教室



囲碁教室



メキシコ仏教伝道協会では、子どもから大人まで幅広い年齢層の皆さまに仏教に親しんでいただけるよう、様々な場を提供しています。メキシコ恵光寺では、メディテーション（瞑想）、ヨガ道場、坐禅会の開催や武道指導にはじまり、祖先祭、初参式、仏前結婚式、年忌法要、映画鑑賞会など、その活動は多岐に亘り、ますますその広がりを見せています。

また近年増えてきたのが、教育機関での講演やセミナー開催の依頼で

す。中でもアルバ・エディソン大学（プエブラ州）では、新学期を迎え、レオン総長の号令のもと、全ての学生、教職員に向け「仏教聖典」が手渡されました。総長は敬虔なカトリック教徒ではありますが、学校を「道徳教育の場」として考え、仏教こそ修得した学問を社会に出ていかに正しく応用するかを教える最も優れた教科

書である」と指導されています。

平成26（2014）年7月、安倍晋三首相ご夫妻がメキシコを訪問された際に、メキシコ恵光寺内「茶えん」〔平成22（2010）年オープンの日本茶カフェ〕での幅広い文化活動が評価され、同店を運営していただいている桂ご夫妻が、在メキシコ日本大使館主催の歓迎晩餐会に招待されるという嬉しい出来事もありました。奥様の真由美氏は剣道7段の腕前で、橋本龍太郎元首相がメキシコを訪問された際には、剣道のお相手としてメンと向かい合ったこともあったそうです。

残念なことに、現在メキシコでは経済的発展の裏で、前政権と麻薬組

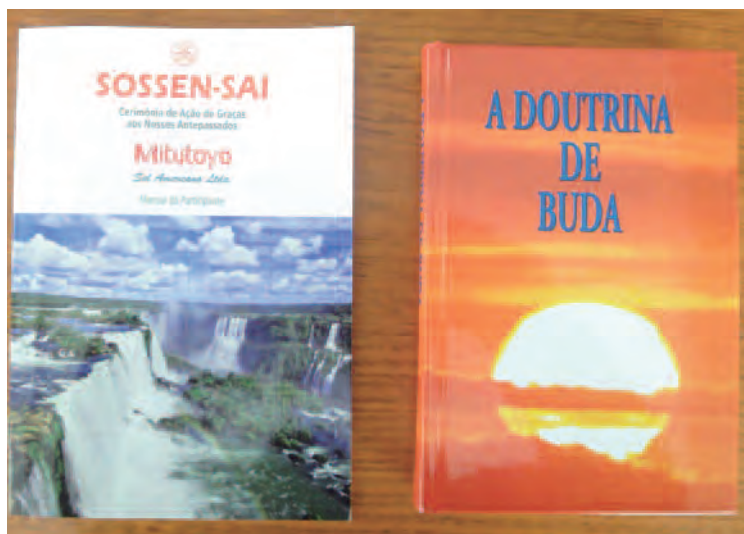
織との抗争が激化し治安が悪化したことにより犯罪も急増しています。このような状況の中で平和な社会を目指す仏教の教えは、今最も求められています。思い込みを捨て日々誠実な生き方を心がけることにより安全な日々を取り戻していただけるよう、メキシコ仏教伝道協会では、これからもメキシコ恵光寺の様々文化活動等を通じてメキシコに暮らす方がたの心に寄り添う活動を目指してまいります。

※その他メキシコ仏教伝道協会の活動に関する詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。

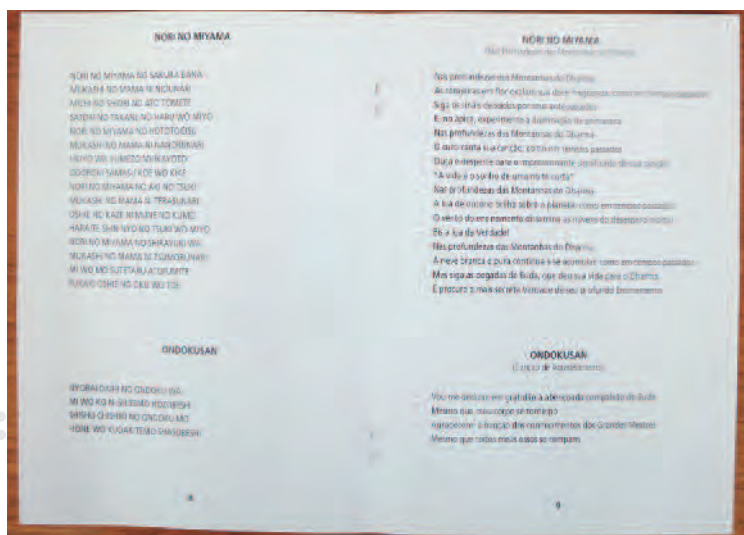


南米仏教伝道協会

SOUTH AMERICA



『ポルトガル語仏教聖典』と祖先祭しおり



法の深山（ポルトガル語解説）

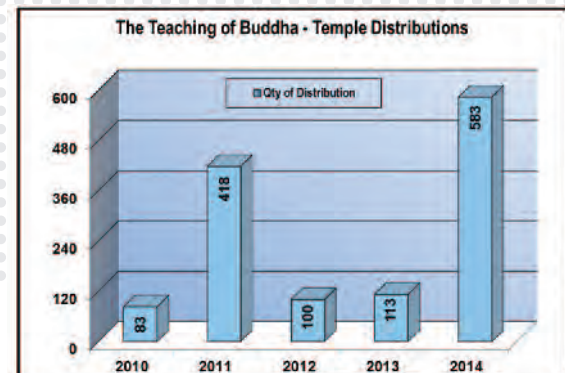
平成26（2014）年は、ブラジルでサッカーのワールドカップが開催され、日本代表選手団も出場しました。日本の戦績は決して良いものとは言えませんが、試合後に日本人サポーターたちが競技場の掃除を行ったことは大変清々しく、世界を感動させました。まずは自分たちの足元を綺麗にしようという気持ちを感じ取ることができ、「一隅を照らすものこそ宝なり」という言葉が思いつきました。ブラジルでの活動

も決して欲張らずに、まずは今手がけていることを見つめ直したい、そしてより良いものへの継続的な取り組みが大切であるという心持ちで今後も活動に注力したいと考えています。

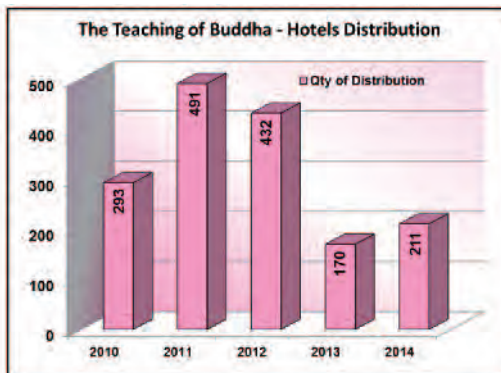
そのような観点から、まずは「仏教聖典」の文章に関して、読者の方からいただく記述に関する貴重なご意見などを参考にし、時代に即した表現への見直し作業を行い、修正を加えました。

そして南米ミットヨで毎月開催している祖先祭に使用する「しおり」にポルトガル語訳のページを加えました。以前は日本語（アルファベット表記）のみで、何となく理解していた皆さんも、正確な意味を理解することによってより深く祖先祭の意義を理解できたようです。

尚、平成26（2014）年における「仏教聖典」の頒布数はグラフの通り、寺院へ月平均583冊、ホテルへ月平均211冊となっています。



「仏教聖典」配布実績（寺院向け）



「仏教聖典」配布実績（ホテル向け）

※その他南米仏教伝道協会の活動に関する詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。

台湾仏教伝道協会



台湾仏教伝道協会関係者と沼田会長



プレゼントされた書道作品



新たに作成した中国語の紹介パンフレット

台湾仏教伝道協会 設立25周年総会開催

平成26（2014）年、台湾仏教伝道協会は、設立25周年の節目を迎え、さまざまな活動が行われました。

4月には台湾ミットヨ新台中事務所において、11月には高雄・台南事務所統合移転の個展において、仏教伝道協会の特別コーナーを設置しました。新たに作成した中国語のパネ

ルやパンフレットを通して、仏教および仏教伝道協会の紹介を行いました。「仏教聖典」に興味を持たれる方も多く、あとで郵送してほしいという要望も多数いただきました。

11月13日には、公益財団法人仏教伝道協会より沼田智秀会長、生田忠士常務理事が出席し、台湾仏教伝道協会の25周年式典が執り行われました。式典では、世界における仏教伝道協会の活動紹介が行われた他、大分県で創業300年以上の歴史を持つ糴谷本店の浅利妙峰社長をお招きし、「健康康心」の概念のもと講演を行っていただき、途中糴を使った料

理も振舞われるなど、大変好評でした。

また、台湾仏教伝道協会理事長であり、著名な書家でもある張炳煌先生による書道パフォーマンスが披露されました。張先生他2名の先生方による作品は抽選の上、記念品としてプレゼントされ、出席者にとって25周年の良い記念になったようです。

※その他台湾仏教伝道協会の活動に関する詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。





EUROPE

世界沼田仏教講座 コーディネーター会議開催

平成26(2014)年8月19日に公益財団法人仏教伝道協会は、設立以来初めてとなる「世界沼田仏教講座コーディネーター会議」を国際仏教学学会(International Association of Bud-

dhist Studies) に併せてウィーンで開催しました。

仏教伝道協会では、日本仏教精神とその文化を広く世界に弘め、学術振興をはかることを目的に、昭和59(1984)年、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校に「沼田仏教講座」を開設しました。以来、世界の主要大

学に講座を開設し続け、現在ではアメリカに7校(カリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、シカゴ大学、スミス大学、ハワイ大学、米国仏教大学院大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、カナダに3校(トロント大学、カルガリー大学、マギル大学)、欧州に5校(オックスフォード大

学、ロンドン大学、ハンブルグ大学、ライデン大学、ウィーン大学) が開設され、世界の15大学で講座が運営されています。(オックスフォード大学、ハーバード大学においては沼田仏教講座専任教授職が設立されています) 講座開設から30年目にして初めて、全世界の沼田仏教講座のコーディネーター担当教授が一堂に会した会議が開催されました。世界の沼田仏教講座開設大学15校のうち11校13名のコーディネーターと海外の仏教伝道協会協力機関から関係者9名の総勢22名が出席しました。

桂紹隆教授(龍谷大学)の司会の下、沼田智秀会長の挨拶に始まり、各大学より、沼田仏教講座の運営状況の説明がなされた後、沼田仏教講座が今後考えるべき事、進むべき方向性など積極的な意見交換がなされました。

各大学において講座の運営に携わってくださっている教授の皆さんは、自身も沼田仏教講座で学んだ研究者であった方や、仏教伝道協会の「BDK Fellowship (外国人留学生奨学金制度)」の受給者であった方も多く、世界を代表する仏教学者として各国の主要大学で活躍されています。沼田仏教講座の開設事業を筆頭に、仏教伝道協会が世界における仏教の学術振興に果たしている役割は非常に大きなものとなっています。



ヨーロッパ仏教伝道協会

国際仏教学会 (International Association of Buddhist Studies) のブース展

平成26(2014)年8月18日〜23日までウィーン大学において第17回国際仏教学会 (International Association of Buddhist Studies - IABS) が開催されました。IABSは現在3年に一度開催されている世界最大規模の仏教学会で、世界中の著名な仏教研究者が一堂に会します。今回はヨーロッパでの開催ということで、参加者は欧米の学者が中心でしたが、日本やインド、韓国、タイ、台湾、中国(五十音順)などのアジア各国からの参加者も目立ちました。

ウィーン大学は、インド・チベット哲学および仏教学の権威であるErich Frauwallner先生、Ernst Steinkelner先生が教鞭をとった大学として知られていますが、今回はその伝統を継ぐKlaus-Dieter Mathes教授(沼田仏教講座コーディネーター)がIABSの統括コーディネーターを務めました。

今回この学会に集まった仏教研究者の方がたに仏教伝道協会の活動や出版物を広く知っていただくために、仏教伝道協会の特設ブースを出展しました。ブースには「仏教聖典」、「英訳大蔵経」やドイツ「恵光」日本文化センターの出版物『法輪』、『仏教大辞典』などを展示し、ブース中央には大型モ

ニターを設置して、仏教伝道協会の歩みや活動内容を放映しました。

学会の休憩時間等には、多くの方がたが仏教伝道協会のブースの前に立ち止まって、展示物を興味深く眺めていました。会場にいた方がたの大半が研究者でしたので、特に「英訳大蔵経」に関心を持つ方が多く、本の中身をじっくり確認している姿が非常に印象的でした。また、沼田仏教講座や奨学金に興味を持って質問してこられる方がたもいました。

20日の夕方には、仏教伝道協会の大來氏が、沼田仏教講座を始めとする仏教伝道協会の活動に関する発表を行い、来場された方がたは、関心を持って話に耳を傾けていました。

日本デー (JAPAN TAG) の開催

「恵光」日本文化センター(以下、恵光センター)のあるデュッセルドルフ市やその近郊には8,000人近くの日本人が住んでおり、毎年5月もしくは6月に日本デー(JAPAN TAG)というイベントが開催されています。日本デーの催しは外務省が中心となつて世界の様ざまな都市で行われていますが、このデュッセルドルフの日本デーには毎年数十万規模の人びとが集まります。平成26(2014)年は5月17日に開催され、メイン会場であるライン川の河畔を中心に非常に大きな盛り上がりを見せました。

恵光センターでは、この日本デーの前日に前夜祭として、篠笛の演奏家である片野聡氏のコンサートを本堂で開催しました。片野氏は千葉県佐原市出身で佐原囃子の笛方であり、第1回全国横笛コンクールでは、金賞・県

知事賞・特別賞を同時に受賞し、今回で3年連続3回目のコンサート開催となりましたが、毎回好評を博しています。今年もコンサートの開場前から多くの人びとが入口に詰めかけ、開場と同時に本堂に設置した100以上



前夜祭でのコンサート(恵光寺本堂にて)



EUROPE



コスプレ姿の若者で賑わう恵光寺境内 (JAPAN TAG)



メイン会場であるライン川河畔の様子



JAPAN TAG 当日

の座席がすぐに満席となり、本堂の外から多くの方が立ち見状態で鑑賞するほどの盛況ぶりでした。演奏は2時間近くに及び、曲目は佐原囃子や片野氏のオリジナル曲まで実に様々でしたが、来場者は最後まで素晴らしい演奏に聴き入っていました。

日本デー当日は、今年も恵光センター内の庭園、日本家屋、本堂を無料開放しました。雲ひとつない晴天に恵まれ、開放時間の午後1時から6時までの5時間の間に1,000人以上の方が来場されました。ドイツ国内からだけでなく、オランダやベルギーなどの隣国からの来場者も多く、また日本のアニメの影響を受けたコスプレ姿の若者も数多く見られました。恵光センター内の共生ホールでは、梅野亮絵画展が開催されましたが、こちらの会場も当日は大盛況でした。絵画展は日本デーを挟んで、わずか11日間の開催でしたが、会期中に800人を超す方が来場されました。

ライン川河畔には多くの日本食の屋台や日本文化を伝えるブースが設置され、中央のメインステージでは様々な催しが行われました。ステージ上では恵光幼稚園の園児たちによるお遊戯や、日本舞踊のコースを主宰している花柳智絹先生のグループによる踊りの演目も披露され、ステージ周辺は身動きが取れないほどの大変な人出となりました。日本クラブの発表によると、今回の日本デーには過去最高の75万人の来場者があったということです。最終日は夜11時頃から恒例の日本の花火がライン川に打ち上がり、大きな盛り上がりを見せた日本デーは幕を閉じました。

英国仏教伝道協会



有志の学生さんによる尺八演奏



ロンドン大学にて：ウェブリー学長（左）、ドルチェ准教授（中央）、沼田会長（右）

ロンドン大学 沼田仏教学講座 専任教授ポスト設置記念署名式典

平成4（1992）年から沼田仏教学講座基金が開設されているロンドン大学（東洋アフリカ学院・通称SOAS）に、この度日本仏教学の研究に特化した沼田仏教学講座の専任教授ポストが設置されたことを記念して、平成26（2014）年10月7日（火）にロンドン大学に於いて署名式典が執り行われました。

仏教伝道協会からは沼田智秀会長、生田忠士常務理事が出席し、ロンドン大学からはポール・ウェブリー学長、ルシア・ドルチェ准教授（初代沼田仏教学講座担当）、その他講座関係者や学生の皆さんが出席し、式典中には有志の学生さんによる尺八演奏が行われるなど、歓迎ムードの中、式典は滞りなく終了しました。

また記念式典後には、ロンドン市内のレストランでロンドン大学関係者との祝賀懇親会が行われ、そちらも大変和やかな雰囲気の中、関係者との親睦を深める素晴らしい機会となりました。

巖真ロック顧問ご逝去

平成3（1991）年から英国で「仏教聖典」および仏教の普及に尽力されてこられた巖真ロック顧問が平成26（2014）年9月1日、入院先のサウサンプトン市内の病院で永眠されました。享年88歳でした。

23年間の長きに亘り英国仏教伝道協会の発展に尽力され、また英国における仏教の普及と共存共生の仏教の基本理念を幅広い年齢層の英国人の方がたに説き続けてこられた故人の



前列中央（左から3人目）：故・巖真ロック顧問、その左隣：清真クラーク師



故ロック顧問と英国 BDK 片山氏



故ロック顧問後任の清真クラークさん

多大なる努力と貢献、功績に感謝するとともに、ご遺族には深くお悔やみを申し上げたいと思います。
後任は、長年ロック顧問に師事し、同師が開かれた英国天台宗薬師堂を引き継がれた清真クラーク師にお願いしました。

※その他英国仏教伝道協会の活動に関する詳細は直接現地へお問い合わせ下さい。

生命

いのち。寿命。

生物を生物たらしめている原動力。

物事の最も大切な部分という意味が生命という言葉にはあります。

しかし、最近、「いのち」と「生命」を使い分けて使われることが多くなりました。どういうことかといいますと、「生命」という時は、

この肉体を肉体たらしめている原動力ということで、

この肉体がこの世に存在する間に限定して使っているのです。

これに対して、「いのち」という時には、

肉体がこの世に誕生する前の過去、

この世に存在する現在、

この肉体が消滅した未来を貫いて、

私を私たらしめるものという意味です。

私という存在は、この世に肉体がある時だけの存在ではないのです。

この世に肉体がある時だけの存在ということになりますと、

無から私という有が誕生し、

私という有が無になるということになります。

私にわからないだけで、私は私として過去にも未来にも存在するのです。それが「いのち」という考え方です。

(仏教伝道協会 会長 沼田智秀 著『ささえあつて』 ― 百八つのおもい ― より)